

資料②

平成26年度

社会教育関係機関事業報告

公民館利用状況	1
生涯学習交流センター	2
君津中央公民館	5
八重原公民館	10
周西公民館	15
周南公民館	20
小糸公民館	25
清和公民館	30
小櫃公民館	35
上総地域交流センター	39
上総公民館	44
文化振興課	45
久留里城址資料館	49
体育振興課	52
中央図書館	53
生涯学習課	54



君津市生涯学習交流センター 26年度事業報告(概要)

分類	事業名称	回数・延人数等	主な内容・題材等	目的・背景等	成果・課題等
市民相互交流促進・生涯学習推進事業	子育てに絵本を「講義」講演会	1回 2時間 53人	テーマ「子育てに絵本を」 講師：赤ちゃん絵本研究 代表 後路 好章氏	赤ちゃんのうちから絵本の読み聞かせをすることの大切さ、絵本の魅力を話していただき、絵本を子育てのヒントにしてもらう。	子ども読書では著名な方であり、講師に関心のある方のみならず多くの参加者が会った。本の持つ意味なども改めて確認できたなどの感想も多く、好評の事業であった。 課題としては、内容が読書推進という一面もあることから、中央図書館との連携を当初計画段階からした方が良かった。日程決定後、図書館の周知の中で、類似事業があり、日程も近かったため、図書館にご協力いただき、再調整が必要となりました。ことが反省点である。
	「子育てに絵本を」講座	3回 6時間 116人	・講義「絵本の魅力を大人にも『大人への読み聞かせ』」 ・講義「絵本の読み語りのコツ、わらべうたを習おう」 ・家庭での読み聞かせの様子などの情報交換会	本に触れる機会が少ない就学前の幼児を持つ保護者に、絵本のすばらしさを体感してもらい、読み聞かせの技術を習得すること、家庭での親子のコミュニケーションのきっかけづくりをする。	読み聞かせの大切さ、絵本の意味などを再確認したなどの感想も多く、本を入り口に自分の子育て、親子の関わりを考え直す機会にもなった。課題としては、親だけでなく、子育てに関わっている祖父母の参加なども今後目指したい。
	暮らしの「これから」を講義	7回 10.5時間 147人	・地域おこし・地域課題解決 ・決班、暮らしと福祉班、コミュニティケーション・交流促進 ・班に分かれて班別交流会 ・講義「暮らしの「これから」を考える」ほか	少子高齢・単身世帯の増加や市外への人口流出による人口減の問題や、年金や福祉制度、君津市の財政状況などをみながら、「君津市」のことを学ぶのと同時に、自分たちの身近な「暮らし」を見つめる中で、話し合う時間を大切にして、一人ひとりの意見に寄り添いながら交流を深める機会を作る。 25年度から26年度の9月までを講座の期間とし、14回に渡って講座を実施する。	【成果】前期に引き続き続き実施した。後期では28名の参加があった。地域活動をしていく方が多く参加していたので、班活動を通じて、「実践と実践」、「人と人」の“つながり”が少し生まれたいようである。また、自主学習も盛んに行われ、地域の自治会館の見学にいったり、まちづくりふれあい講座を受講する班があったり、様々なデジタルツールや施設を調査する姿が見られた。講座終了後は、自主学習グループとして、活動をはじめた班もあり、講座の趣旨に合致した結果になった。 【課題】学習の進め方が難しかった。後期は、各班に担当職員1名を置いてそれぞれに関わったが、担当での情報共有にも工夫が必要であった。また、今回は「学習」を通じて交流があったので、職員主導になってしまっただけで、学級生を交えた運営ができるよう工夫する必要がある。
	子育て支援交流会 おしゃべり広場	2回 4時間 97人	講義「子どももHAPPY Y! 家族にやさしいママでいたい」、講義「子どもの心をのばすには～とお話とティータイム～」	子育て中の保護者に「おしゃべり」という形の交流をしてもいいながら、ファミリーターナーとしてさぼって参加すること、子どもに對する思いや、自分の子育てのいろいろなる面に気づいてもらう。そして、日頃抱えている子育ての悩みを交流をすることによって、「悩んでいるのは自分だけではない」という視点から、気持ちを解消し、自分の悩みを話すことで、グループの方からの学びや気づきを得てもらう。また、「さぼって」がおしゃべり広場を企画・準備・運営すること、自己研鑽する機会とする。	年に2回の「おしゃべり広場」はある程度定着しており、リーダーの参加も多く、安定した集客数となっている。12月に開催した回は参加者数の減少が見られた。幼稚園の早帰り時期やインフルエンザ等感染症の流行時期等、参加者層の状況を考えた時期設定をしていく必要がある。

<p>コンサート</p>	<p>2回 4時間 352人</p>	<p>『クリスマスコンサート』 『だれでも気軽に楽しく JAZZコンサート』</p>	<p>乳幼児を持つ保護者など、普段コンサート等に行くことができない親子に気軽に音楽を届け、子どもへの情操教育に寄与する。 また、当センターで気軽にかつ上質な音楽を無料で聴いてもらうことを冬と春の2回実施する。</p>	<p>冬にはクリスマスコンサート、春にはJAZZコンサートを実施した。2部構成で前半は子ども向け、後半は大人向けの内容だったが、子ども向けに来られた方は終わってそのまま帰ってしまう傾向にあり、全体を通して参加してもらいたうための課題となっている。 無料保育については、クリスマスコンサートについては申込みがあったが、当日利用することはなかった。JAZZコンサートは昨年度に引き続きのものとなったが、今後も実施してほしいという声が多く、要検討。</p>
<p>ミニ鉄道フェスティバル</p>	<p>5回 8.5時間 527人</p>	<p>事前・事後打合わせ4回 フェスティバル1回</p>	<p>「さざなみ鉄道倶楽部」との協力により鉄道模型（Nゲージ）やブラレールの展示、ミニ電車体験乗車、工作、鉄道関連展示や写真展示、駅長服試着などの企画を行い、鉄道をテーマとして、家族や親子、友人知人、趣味の同じ仲間などが集い楽しむことのできるイベントを開催することでコミュニケーションを持つ機会を提供する。</p>	<p>今年度は企画からの参加者を増やした。従来のさざなみ鉄道倶楽部主体のものから、多種団体共催として今後目指していく。内容としては、昨年度行ったミニ電車の体験乗車をなくしたため、そこを目標として来館した方も少なくなかった。ペーパーワークやぬいぐるみ等の工作は種類を増やし、概ね好評であった。</p>
<p>講演会「コミュニケーションUP! ~人づきあいに活かせる"傾聴"~」</p>	<p>1回 2時間 32人</p>	<p>「コミュニケーションUP! ~人づきあいに活かせる"傾聴"~」講師:カウンスラー 渡辺 晴代</p>	<p>生活の様々な場面（サークル活動や地域活動等）で、他人との関わり方に悩んでいる人を対象に、コミュニケーション手段としての「傾聴」について学習する。</p>	<p>この事業は対象を年代等で区切らずに一般を対象としたところ、高齢期にあたる年代の参加者が多く見られた。子どもが独立した後の夫婦関係や地域活動を行う中で、コミュニケーションの取り方をあらためて考える時期でもあることが、感想等から伺えた。「傾聴」に関する事業を実施する際には、「子どもを持つ保護者」を対象とすることが多かったが、今後はあらたな対象に向けて展開していく必要がある。</p>
<p>知って安心 サークル活動 と著作権</p>	<p>1回 2時間 17人</p>	<p>サークル活動と著作権について 講師:清和大学法学部教授 清水幸雄</p>	<p>サークル活動の中で関係してくる「著作権」について学習する。 「著作権」についての基本的な考え方だけでなく、活動をする上で想定できる具体例から、どのような配慮をすればいいか学習する。</p>	<p>著作権について講義を行った後、具体例を基に解説を加えてもらった。ただし、個別のサークルが抱えている案件はそれぞれ異なるので、全てに解説を行うわけにはいかず、消極的な講義の時間を多くとったが、今回は質疑応答を中心にした内容で実施しても良いのではないかと考えた。終了後も問合せを受けたので、要望はあると思う。</p>
<p>講演会「より良くなるために『おとなの発達』とは？」</p>	<p>1回 2時間 116人</p>	<p>発達心理学からみた「おとなの発達」について 講師:東京女子大学名誉教授 柏木恵子</p>	<p>高齢化社会の中で、自分らしく年齢を重ねていくためにはどうすればいいのかが。発達心理学の視点から、加齢に伴う心と行動の変化と、それに適応するための学習について考える。</p>	<p>実際に迎えた高齢期をどう生きていけば良いか、模索している方の参加が見られた。講演から「主体的に生きる」という方向性を得たことが感想から伺えた。講師が参加者より高齢という点も、内容に説得力を与えた理由でもあると思う。参加者が得た気づきを行動に反映し、より良く生きることでできるような機会となるよう事業展開をどう進めていくかが、今後の課題である。</p>
<p>講演会「思春期の子どもとの関係について考える」</p>	<p>1回 2時間 22人</p>	<p>「思春期の子どもとの関係について考える」 講師:臨床心理士 京谷 幸一氏</p>	<p>思春期の子どもとの心理について学習する。子育てサポート「さぽっと」の活動として、思春期の子どもを持つ保護者への傾聴を始めている。それに伴い、思春期の子どもにも関する知識を得る必要が生じてきており、研修の一環として実施する。 また、同じく思春期の子どもにも関する支援活動を行っている方や関心のある方も参加できるより、一般を対象とした講演会として実施する。</p>	<p>思春期の子どもを持つ保護者だけでなく、教員や支援に関わっている方の参加もみられた。 思春期の心理について、丁寧な解説があった後に相談者として接する時の留意事項として、思春期の子どもを持つ家庭が置かれている社会環境の事や相談にのる時の話しになったので、一般にもわかりやすく、一環した講演会として参加してもらったことのできたようだ。 思春期に生じる課題を取り上げる事業は一定の要望があるので、これからも実施について検討を要する。</p>

市民相互交流促進・生涯学習促進事業	男のヨガ	4回 8時間 40人	準備体操、ヒーリング、交流会ほか	<p>気圧に由来、心身ともに健康増進を図れるスポーツとして主に女性の活動が活発になってきているなかで、ヨガを対象に、ヨガを増やして男性も増えている。未経験の男性にとともに、ヨガを通じて受講生同士の相互交流を狙います。</p>	<p>現在、女性主体のヨガサークルが多く、男性が気軽に参加できる場所が少なく思われるため、男性だけのヨガは来易かつたとの感想があった。また、男のヨガへの参加で始めて生涯学習交流センターに来てという人も多く、地域活動の第一歩としてのきっかけとして機能した。ヨガは参加者同士コミュニケーションを取り合いながら和やかに行われた。今後も継続して続けていきたいという参加者の声があがり、センター利用サークルとして発足した。</p>
市民相互交流促進・生涯学習促進事業	男の料理教室 (初級編)	8回 20時間 88人	鮭の味噌煮、ほうれん草の胡麻和え、くず汁、野菜とひき肉のカレー、きのこの和風マリネ、チーズとレモンのスープほか	<p>「弁当男子」「料理男子」という言葉も登場し、台所に立つ男性も珍しくない。しかし、定年後の男性たちは例外的なように、妻の8割が夫の屋敷を作っているという。こうした男性たちのために料理の基礎からやさしく手ほどきすることにより、「生活自立能力者」とうたっている。対象は「市内在住の男性で料理初心者」とうたっているが、定年退職をした60～70代を主に見込んでいる。</p>	<p>各回及び最終回のアンケートから、「料理に興味を持ってもらう」という導きはできた。また、主婦の大変さを知り、家庭での継続や新しいメニューへ挑戦する意欲も醸成できたようである。さらには、「料理をすることにより、家内と話す機会ができた。料理の腕より、その方が大きかった」とあり、思わぬ副産物も生まれた。講座終了後、今回の受講生以外の方からサークル加入の問い合わせがあった。</p>
子ども相互交流事業	チャレンジ・キッズ～森の探検隊2～	7回 17時間 40分 187人	ホタルの観察、夏・秋の木の観察、樹木の特徴の学習、夜間の森林観察、イメージマップ作成等	<p>市街地の自然が減少する中で、屋外での遊びや遊びの質そのものが限定されるようになっている中で「見て、触れて、感じる」自然体験や直接体験を通じ、身近な自然や環境に目を向け、その中で子ども同士、保護者同士、あるいは子どもと保護者のコミュニケーションを図る機会を作る。また、どのような生物が、どこに生息・群生しているのかを地図に記した「森のイメージマップ」作りや、子どもがやってみたいことにチャレンジングでできる場作りをしなが、学びを形に変えていく。</p>	<p>【成果】平成25年度から新しく始めた事業で、昨年度は親子8組17人と参加は少なかつたが、今年度は親子25組63人の参加があった。ホームペーパーや館内掲示板、展示板に昨年度の参加者の探検の成果をまとめた掲示物を張り出すなど、PR活動が上手いので、個人の学びを多くの人と共有することができ、地域の方も見るので、学習に広がりがあった。</p> <p>【課題】事業日時の変更の連絡が伝わっていない、参加者が少ない回があった。口頭での説明ではなく、「お知らせ」を送付したほうが良い。また、野外での活動が多いので、天候に左右された時の迅速な対応が必要である。</p>
こっこる一む事業	こっこる一む事業			<p>こっこる一む（保育室・児童室）に訪れた親子の交流を図るため、月曜日と水曜日に事業を行う。</p>	<p>今日の絵本のなかに？ 月2回 季節の歌や童謡・唱歌 月2回 布絵本に触れながらおはなしを楽しむ 月1回 オカリナで歌に親しむ 2回 折り紙で七夕とひな祭りを楽しむ 2回 こっこる一むミニコンサート 1回 親子で触れあいがら遊ぶ時間 2回 こっこる一むミニコンサート 1回 簡単なバルーンアートを用いて親子の交流 2回 ブラックパネルシアター 1回 腹話術を上演し、親子で交流 1回 英語で遊ぼう 1回 パネルシアターや手遊び歌 月1回</p>

君津中央公民館 26年度事業報告(概要)

分類	事業名称	回数・延人数等	主な内容・題材等	目的・背景等	成果・課題等
公運審	君津地区公民館運営審議会	10回 26時間 73人	・公民館運営審議会4回 ・君津地方公運連会議・研修 ・千葉県公民館研究大会	君津地区の君津中央公民館、八重原公民館、周西公民館、周南公民館から12名の委員を委嘱し、住民の声を取り入れて、民主的で活力的な公民館運営を図り、公民館事業の企画実施について審議する。	公民館事業について理解を深め、公民館が地域に根ざした事業を展開するため、公民館事業について審議した。また、文化祭、青少年教育事業、高齢者学級の実施状況の個別事業報告に、意見をいたしたき事業執行に反映させる。また、研修会や研究大会に積極的に参加し公民館に係る知識を深めた。
地域自治・文化振興支援事業	君津中央公民館開館50周年記念事業「公民館、50歳の健康診断」	13回 29.5時間 205人	・地域と公民館のあゆみ ・分館事業と地区館建設 ・サークル活動 ・公民館だより ・社会体育婦人の学び ・成人の学び ・読書推進活動 ・文化祭 ・公運審、社会教育委員 ・子ども文化活動 ・青年の学び ・これからの公民館活動	君津市に最初に建設された公民館、君津中央公民館の50年の歴史を検証し、これからの公民館のあり方について考える事業とする。 既存の記念誌(計5冊)を主な資料とし、テーマごとに当時の関係者をゲストとして招き、参加者と共に「公民館が何を指し、何が出来て、何が出来なかつたのか」を語り合う会とする。 毎回語り合いの内容を記録にまとめ、記念誌として発行することとめざす。	事前準備で、記念誌部会委員と公民館職員が話し合いを重ねるなかで、公民館活動についての理解を深めることができた。また、当日の運営を通して、ゲスト、参加者と君津中央公民館の歩みについて考え、今後の展望について話す事ができたことが成果である。 課題としては、記念誌部会委員の一部に仕事の比重が偏ってしまつたことと、事業間の間隔が短く、十分に事前準備ができなかつたこととである。 記録を記念誌にまとめ、この事業で得られた成果を参加できなかった方やこれから公民館活動を始める方に繋げていきたい。
	公民館だより「ひこぼゆ」	4回	344号:君津中央公民館開館50周年記念事業実行委員会設立ほか/345号:君津市総合防災訓練ほか/346号:第50回文化祭/男性向け新規事業ほか/347号:平成27年度君津中央公民館事業報告/職業人に聞く/古代からの贈り物ほか	公民館活動や社会教育活動等の紹介。その他地域の話題提供を通して地域文化向上を図る	昨年度は4回とも印刷業者へ依頼をしていたが、予算削減により3回分のみとなつた。回数を削減しないよう、1回は館内で印刷し、発行することで年4回発行を維持することができた。但し、紙面作成技術や掛かる労力など、検討事項は残る。
	第50回君津中央公民館文化祭	21回 50時間 8030人	・君津中央公民館開館50周年記念式典 ・開会式、作品展示、特別企画(ねんりんコンサート) ・バスに乗って地域を知ろう(私の選んだこの1冊、懐かしのレコード鑑賞会、みんなで話そう地域のこみ、レトロ映画会) ・実行委員会、役員会	公民館サークル、生涯学習交流センター活動団体、利用者や地域団体と一緒に文化祭を行う。実行委員会を組織し、公民館サークルは原則全サークル参加することとで実施する。公民館活動と主催事業の学習成果を発表し、地域の人々との交流を広げるとともに、地域文化の向上に資することを目的とする。	【成果】開館50周年を受け、文化祭を三日間に拡大して実施し、3日間で7千人を超す来場者があった。文化祭では、多くの地域団体と関わりながら実施することができ、地域の小学校や中学校とのつながりが深くなつたことが成果である。また、実行委員会が中心となり運営をし、日頃の活動を活かして地域に還元することができたことが成果である。 【課題】催し物の規模が大きくなり、日にちによつて催し物に差が出た結果、来場者が少ない日があつた。また、50周年事業実行委員会と連携しての会議となつたので、分野別会議の開催が難しく、内容が深め切れなかつた部分もあつた。

<p>地域自治・文化振興支援事業</p>	<p>展示ギャラリー 利用促進</p>	<p>・津駅展示 ・廊下展示 ・ギャラリー展示</p>	<p>館内展示スペース、津駅展示スペースを有効活用し、主催事業、サークル・団体等の学習成果の発表の機会を提供する。</p>	<p>館内、駅掲示板とともに、多くの団体に展示利用の機会を提供することができた。 駅掲示板は、その場所から普段公民館に来られない層の方にも公民館活動について知る機会を作ることができているため、写真サークルの展示のみならず、主催事業や各種行事の紹介をするよう配慮したい。また、ギャラリースペースに関しては、展示期間中には気軽に集まり、「談話」するスペースがなくなってしまうので、いかに人が気軽に集まる場所と両立するかが課題である。</p>
<p>津中央公民館内だより「かわらばん」</p>	<p>2回</p>	<p>職員紹介、担当事業紹介ほか</p>	<p>サークル活動や主催事業の時事情報を提供し、公民館を身近なものとする。また、地域・公民館利用者との交流の機会とし、地域文化の向上に資する。紙面・公民館利用を通じて「地域自治」、「文化振興」について考えることのできる機会を提供したい。</p>	<p>時期ごとに行なった事業紹介を主な内容とする。公民館報と内容・発行時期が被ることなど独自の方向性を調べていきたい。また、50周年事業の報告を特別に設けたパネルで行っていたこともあり、発行回数が大幅に減ってしまった。利用者と公民館をつなぐ身近なパイプとしての機能を果たせるよう努めていく。</p>
<p>素敵な珈琲時間。</p>	<p>2回 4時間 66人</p>	<p>豆の選び方、焙煎の種類、珈琲の木からカップ、代表的な豆の種類、珈琲の入れ方</p>	<p>公民館や地域に関わるきっかけ、また、地域の仲間作り・居場所作りとして趣味教養講座を実施する。今回は、30代からの男性を主なターゲットとし、豆の種類や淹れ方などの珈琲についての基本的な事柄を学びながら交流を深める機会とする。</p>	<p>【成果】普段公民館に足を運ばない人の参加を狙って、日曜日開催にしたところ、40代、50代の男性の参加が見られた。また、参加者の感想からも、「平日は、仕事の関係でなかなか公民館活動に参加できないので、土日このような講座があることが良かった」という声があり、土日開催の講座の需要があることがわかった。珈琲を通じて、地域の方の交流が見られた。 【課題】事業の実施時期について検討が必要。今回は、新しい趣味を始めやすいよう「春」の実施にしたが、夏や年末など実施時期を研究し、公民館に足を運ばない方向に向けて、公民館の入門的位置づけとして実施したい。</p>
<p>サークル・団体 代表者研修 会・長期利用 説明会</p>	<p>6回 18時間 325人</p>	<p>・「公民館について」 ・「施設の利用について」 ・「津中央公民館定期利用について」 ・「サークルロッカーについて」 ・調理室利用者懇談会 ・工芸室利用者懇談会</p>	<p>公民館利用サークル・団体の代表者を対象に、運営、活動のあり方について研修を行う。また、公民館の利用のあり方、利用する上での留意点等について理解を深める機会を提供し、サークル・団体活動の円滑な運営に資する。</p>	<p>「公民館」について理解を深めるための機会として、研修会が活用できた。今年度は津中央公民館開館50周年ということもあり、同じテーマを年2回の研修会で扱った。これからもこのような研修会を重ねることで、利用者に公民館の意義について浸透させていきたい。 また、今年度は工芸室・調理室の利用者と対象にした懇談会も別々に実施し、使用にあたってのルールを確認した。</p>
<p>サークル・団体 活動・社会教 育関連の 地域諸団体へ の支援・協力</p>	<p>支援 活動支援 ・青少年相談員活動支援 ・おもちや病院支援 ・子育てサポーター「さぼつと」支援、ほか</p>	<p>・サークル・団体への支援 ・利用者みんなの会への活動支援 ・青少年相談員活動支援 ・おもちや病院支援 ・子育てサポーター「さぼつと」支援、ほか</p>	<p>公民館・生涯学習交流センター利用サークルや地域団体が、地域で活動しやすくなるように、また、「見える」活動を目的に、相談や共催、その他の手法をとりながら支援と協力を進める。その中で、地域文化の向上に資することともに、利用者みんなの会、子ども会、青少年相談員、おもちや病院、子育てサポーター「さぼつと」などの社会教育関連の地域諸団体への活動協力・援助を行う。</p>	<p>【成果】公民館サークル数や利用者が多いこともあり、相談業務は多岐に渡っておりサークルを始めた方や、サークル会員を増やしたい団体などにも対応している。また、その情報を職場内で共有できるように、事務室内に職員連絡用のボードの設置を行い、スムーズに情報の伝達ができる場面もあつたことが成果である。 【課題】担当を設けて支援を行っている団体の情報の十分な共有ができていないので、職員間での情報共有の仕方を工夫していきたい。また、団体同士の結びつきをどのように生み出していくのか、つなげていくかを引き続き考えたい必要がある。</p>

<p>幼児家庭教育学級「つくしんほ広場」</p>	<p>14回 28時間 358人</p>	<p>・メディアリテラシー ・親子交流会 ・子どもの病気に ついて、ほか</p>	<p>幼児を持つ親が身近な仲間に出会う機会「地域(公民館)デビュー」を応援し、子育てについての悩みや家庭での思いなどを共有しあえる場の提供をする。また、その中で子育てや生活に関わる知識を深めていく。</p>	<p>子育てに奮闘する母親達が、子どももかからず離れ自分の時間を持て、あらためて子育てについて見直し、生活課題や息抜きの方法など自らの学びの時間と交流の場となっている。継続して参加している学級生や一部では、企画運営にも積極的に活動するようになりつつある。</p> <p>課題としては、産休育休の参加度であり、次年度は続けられなかったり、年度途中で辞退してしまったり、1年間を通じてともに参加して「学級」ということを意識してもらえよう工夫し、受身ではなく自身が学び作り上げていく場所と思えるようなプログラムを目指したい。</p>
<p>君津中央家庭教育学級「さよ～スペース」</p>	<p>13回 28時間 121人</p>	<p>・子どもの学びを知る ・子どもの安全・安心について ・他学級との交流会、ほか</p>	<p>子どもの家庭教育を中心とした正しい知識を持ち、健康で豊かな子どもを育てる家庭をつくるために学びあう機会を設ける。その中で、子どもたちはもちろん自身のことや地域、社会に関する問題意識を持ち、話し合う時間を大切にしながら、相互の人間関係や学習意欲を育てあうことを目的に実施する。</p> <p>また、プログラム外の時間を大切に、学習者の意に寄り添いながら実施し、様々な学びの形に変えていくことを意識しながら取り組む。</p>	<p>毎回のプログラムの企画、準備及び当日の運営を学級生の話し合いを中心に行うことができた。また、プログラムでは「子どもや学び」に目を向け、そこでの学びから自身のことや家族のこと、地域のことに気づいて考えることができた。さらに、公開学習会にきたプログラムでは、人数は少ないものの幼児家庭教育学級からの参加者があり、学級間のつながりを作ることができた。</p> <p>課題としては、地元地区の保護者の参加がないことと学級生の人数が少ないことである。引き続き周知に工夫し、学級生の募集に力を入れた。</p>
<p>家庭教育学級 ステップアップ わたしの成長 戦略！～自分らしく生きるために～</p>	<p>6回 12.5時間 40人</p>	<p>講義「これが私の生きる社会」女性をとりまく事情について 講義「みんなが生きやすい社会って？」 講義「外国の事例に学ぶ」、ほか</p>	<p>幼児家庭教育学級・中央家庭教育学級で段階的に学び、より学びを深くしたいという方、また家庭教育や青少年・子どもに関わる課題に関心のある方を対象とし、生活や子育てをすすめる上での課題(実生活に即した課題)について、系統的に学習することを目的とする。</p> <p>26年度は2年1クール制の2年目にあたるため、昨年度同様、「女性の生き方」をテーマとして実施する。</p>	<p>学習を積み重ね、「自分ほどのようにありたいのか」を考えることと、人生それぞれを振り返られる機会に共有することによって、「そのためにどうしようか」という具体的な話まですることができた。</p> <p>3学級体制で家庭教育学級を実施している。今回は幼児家庭教育学級・家庭教育学級からの参加者も見られたが、3学級体制のあり方について見直しをしていく時期なのではないだろうか。</p>
<p>シルバークラス 「ほのぼの学級」</p>	<p>12回 35.5時間 321人</p>	<p>講義「身近な暮らしを見つめる～私たちの暮らしと消費税増税～」 講義、「私たちの生活と食」 体験学習 移動学習、ほか</p>	<p>ほのぼの学級では、「生きがいと居場所を見つけてよー！」をテーマに、実生活に役立つこととしてハリーのある高年齢期を過ごすきっかけとなることを目的に実施する。また、学級の中で主体的に携わって、地域に戻った時にリーダーシップを取って、地域自治の振興に繋がるよう共に育ち合う事を目的とする。</p>	<p>今年度は、各班での交流の時間を大切にしながら、近所同士で班を作った組んだ。近所同士で同じ班になるようにしている。それぞれの班で身近な話題で交流する場面が見られ、近所同士で班を作った成果がみえた。</p> <p>「話すこと・書くこと・聞くこと・書くこと」を大切にしているが、少しずつ浸透してきているように思うが、「話し合うこと」はまだ難しい部分もある。</p> <p>学級生の中退学が自立つ。当初、48名の申込があったが、自身の高齢化、病状や怪我等で参加できなくなったり、数名ある。連続プログラムの中に学びがあると思える。毎回の学級の様子年間同じ仲間と実施している工夫を要する。毎回の学級の様子年間同じ仲間と実施している工夫を要する。毎回の学級の様子年間同じ仲間と実施している工夫を要する。</p>

<p>生活活性化支援事業</p>	<p>れんげ倶楽部！</p>	<p>8回 24.5時間 136人</p>	<p>高齢者の交通安全 地域の歴史 移動学習 各種体験活動、ほか</p>	<p>高齢者やこれから高齢期を迎える方が、生きがいのある高齢期の過ごし方について考える機会を作る。課題について考え、学習する時間・レクリエーションの時間をとおし、楽しみながら想いを語れる場、考えられる場を作る。 係分担等をとおし、運営に主体的に関わってもらうよう働きかけを行う。</p>	<p>主権事業交流 会「公民館の集い」</p>	<p>1回 2時間 32人</p>	<p>講演「支えあいの原風景と戸なる場所を目指して～井戸端げんきの取り組みから～」</p>	<p>【成果】2度目の実施となる今年度は、各学級のプログラムにあらかじめ入れられた実施となった為、第1回目より参加者が増えた。内容は、2部構成とし、前半で時事的な課題をテーマにした講義を聞き、後半ではグループワークをし、交流を深める展開にしたため、共通の話題が出やすく話し合いが活発に行われたことが成果である。 【課題】実施時期について検討が必要。ほとんどの学級の閉鎖式後の実施となった為、想定していたよりも参加者が少なかった。また、時事課題や地域課題をテーマにした「集い」とするののか、異世代交流に重きを置いた「集い」にするののか、今後の事業展開について学級生を交えながら検討をしていく必要がある。</p>
<p>開館50周年 記念事業</p>	<p>役員会／実行委員会／部会(式典・事業・記念誌) 事業(文化祭・KIMITSU村・ペーパーグライダーを作って飛ばそう！・子ども関係会議・星空観察&もちつきをしよう・よのなか科・公民館に泊まろう・公民館、50歳の健康診断)</p>	<p>計97回</p>	<p>君津市に初めて設立された公民館の50周年を祝い、地域住民と共に歩んできた歴史を振り返り、そのなかで、住民や利用者、地域団体や職員が「公民館」について学び会い、公民館がこれからの地域でどのような役割を担っていくのかを考える機会として取り組む。</p>	<p>「君津中央公民館」の歴史や成果、そして「公民館」について、記念事業を通じて公民館利用者や地域住民、そして公民館の三者で確認することができた。 この事業を通じて得られた展望や課題を、次年度以降の「君津中央公民館」にどのように反映させていくか、具体的に検討していくことが必要。</p>				
<p>貞元分館利用者懇談会</p>	<p>・サークル紹介 ・貞元分館の利用について ・駐車場整備および清掃作業、ほか</p>	<p>2回 5時間 19人</p>	<p>貞元分館の運営や活動のあり方について懇談を行う。 あわせて利用者同士の交流を図る。</p>	<p>年2回、ほぼ同じメンバーで懇談会を実施しているの、意見交換も活発にでき、清掃作業も協力しあってスムーズに行っている。 次年度も同じような状況が考えられるので、年2回のうち1回は公民館に関する研修を実施することを試みてみたい。</p>				
<p>分館事業</p>	<p>・ウォーキングの基礎 ・正しい姿勢と歩き方について ・貞元地域内ウォーキング、ほか</p>	<p>3回 10時間 27人</p>	<p>貞元地域住民を対象に実施する。 正しい歩き方を学び、運動を生活に取り入れられる習慣づくりを促し、健康増進の一助とする。「貞元地域まちづくり推進委員会」が平成26年度に作成した「貞元花の道 散歩マップ」をPRも兼ねて活用し、地域を歩きながら、ふるさとの魅力を再発見する機会とする。</p>	<p>健康づくりにだけでなく、認知症予防の視点も入れて、必要な知識とその効果について学習を行ったので、参加者がウォーキングを日常の生活に取り入れる有用性について、理解しやすかったのではないだろうか。今回の申込み時に13名中5名だった貞元地域住民が、事業開始時には参加者10名中3名と少数であった。分館事業参加者の割合に占める貞元地域住民が少くないという傾向は、以前からの課題であった。貞元地域での事業の展開方法について見直しを行いたい。</p>				

地域自治・文化振興支援	第6回 共に学ぶ市民の集い	<p>実行委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 三島神社見学会 講演「まもる つくる つなぐ 地域の伝統」 事例発表①清和中学校 ②ほづら文庫 全体意見交換 宿原区棒術の見学 インタビュー、ほか 	<p>市内の社会教育の実践に学び、交流して輪を広げ、人が育つ地域をつくるための教育機関のあり方や仕組みなどについて、市民と職員が共に語り合うことを目的に実践する。</p> <p>今年度のテーマ 「清和であれあふまらさとの今昔～まもる・つくる・つなぐ 地域の伝統～」</p>	<p>【成果】各地域から実行委員が集まることで、地域の実情や公民館の状況について情報交換を行い、交流を深めることができた。フレイワークと当事者から直接話を伺うことで、実践の振り返りや課題を共有し、参加者からの率直な意見も含まれてきた。他地域での社会教育事業に対して新たな刺激となり波及効果が見られた。</p> <p>【課題】本事業の方向性や課題を全地域でどう共有するかが課題。また、集いがツズリ要素に終始することなく、「公民館の役割」に対する理解を広げられるかが課題。「集いのための集い」となることのないよう、各地域で集いで得られた成果を実践につなげ蓄積していくことが必要。</p>
青少年支援事業	子ども遊び場	レクリエーションホール開放	<p>子どもの放課後の居場所づくりとして公民館を提供する。また遊びをとおして異年齢、他の学校の子どもの交流を進める。</p>	<p>八重原地区外には周知していないが、まれに地区外の子供も利用していた。地区外も含めて「子ども遊び場」は需要があるとされている。利用人数は開催日によって数人から30人程度とばらばら開催日以外でも日中にレクリエーションホールが空いていれば開放。</p>
	子ども創作・体験教室	石ころレリーフ	<p>公民館利用サークル等と連携をとり、夏休みに子どもたちが創作体験できる機会を設ける。あわせて夏休み明けの自由研究等に有効に利用してもらおう。</p> <p>公民館利用サークルと地域の子どもたちとの交流の機会とし、地域のつながりを広げていく。</p>	<p>親しみやすいように今年度から事業名とは別に「夏休み！子どもチャレンジくらぶ」というセミナー名を付け足した。英語では1年生から3年生までの参加申し込みのみであった。また、参加した児童たちが笑顔で楽しそうに英語を学んでいたことが印象に残った。</p> <p>夏の暑い盛りで実施しているため、水分補給や体調不良にならないよう我々も周囲の友達や大人に話すよう促すほか、エアコンの温度調整をするなど子どもたちの体調に配慮する必要がある。</p>
	八重原子ども自然体験教室	公民館・小糸川の生き物調べ	<p>本教室は、平成15年度に文部科学省の委託事業を受け、地域教育力活性化モデル事業として八重原地区青少年相談員連絡協議会との共催で開催し、通称「八重原トロロの森」を拠点として子ども達に自然体験を提供してきた。今年度は、子ども達に自然に対する見や気づきを第一に尊重し、一方的な自然観を押し付ける意識を押し付けず、自然と共に生きる意識を育つプログラムにする。</p> <p>※24年度より対象学年引き下げ（4年生→1年生）、25年度より定員引き下げ（35→30）</p>	<p>対象学年と定員の引き下げによって参加申込が過熱状況となってきた（受付開始10分で終了）。このような競争率の高い事業である以上、全プログラムへの継続参加について一定の条件付けを入れてもよいのではと考えられるため、次年度の受付時に取り活動内容については、晴天時プログラムと雨天時プログラムを毎回用意するようにし、月1回必ず活動が行えるよう取り組んでいく。今回、小糸川の生き物調べを親子での参加可能として募集をかけた（前日大雨により予定変更）。しかしながら保護者から参加申込は1件もなく、本事業が「子ども」対象の事業として要望されていることが感じられた。</p>
	親子米づくり教室	<ul style="list-style-type: none"> どろんこ遊び 田植え 大豆蒔き 草刈 稲刈り おだかかけ 脱穀 収穫祭 正月飾り作成体験、ほか 	<p>米師の下落や高齢化による後継者不足によって耕作放棄された休耕地が増えている。子どもも暮らしの中で「土いじり」の体験や働くことへの感謝の気持ちでいる現状がある。青少年相談員共催で実施。米づくりに関する体験学習を通じて、食と農業をリンクさせ、これらへの関心と理解を深め、食の活性化を目標とする。教室実施にあたっては、三直も受け入れ、君津市のPRと共に、将来的には八重原地域の活性化をも連携をとり進めていく。</p>	<p>当初、対象範囲を八重原地区に限定して募集をかけたところろが、実施可能参加者数（13家族）を下回ったため実施が危ぶまれたが、範囲を君津地区全域に拡大して再募集をかけた。再募集は市街地からきた。本事業が他館では実施されていない特徴的な事業・地理的嗜好条件を考慮すれば、今回の募集範囲は今後も継続してもよいのではと考える。一方で、休設期間もあるが今年度で開設から10年目を迎える本事業について関係者と協議していく必要がある。</p>

生活活性化支援事業	家庭教育学級 合同卒業	3回 4時間 69人	「働き出す前に知っておきたい税金と社会保険」 「地域みんな考えてよう発達障害」 「記録集「すてきな子育て」」 発行	八重原公民館では幼児家庭教育学級、八重原家庭教育学級、南子安・北子安家庭教育学級、思春期の子どもを持つ親の学級の4学級が開設しているが、学級運営やプログラムについてはそれぞれ異なっている。また社会的課題の「つながりの希薄化」への対応も迫られている。 このため各学級での活動状況について情報交換会を行い、学級生同士の間でつながりができているところや、関係構築に努めていくために情報交換会を開催する。さらには合同講演会を開催し、生活課題・地域課題への解決に向けた足がかりとする。	情報交換会では講義形式を基本にしながら、参加者同士で話し合え、課題とお金に関するテーマであったことから、参加者も多し、労働とお金に関するテーマであったことから、参加者も多かった。実際に自分で計算できるような実学的な内容を得た。 合同講演会では昨年実施した講演で発達障害に対する関心の高さと、課題の理解が深まったこと、ママを継続した。その家族の困難が挙げられていたことから、ママを継続した。今回は千葉県発達障害者支援センターでの相談事例から学ぶ取り組みを行った。また、今年度も引き続き発達障害の地域理解のため講演記録のWeb公開も行っている。
保育協力者研修	4回 9時間 34人	「乳幼児期の生活リズムが発育にどう影響するか」 「スキルアップ研修「読み聞かせ・手遊び」」 「実技「乳幼児安全法」について」 「講義「夏場の熱中症対策」、ほか	公民館主催事業に幼児を持つ親が安心して参加できるように、またその子ども達が集団の中で成長できるように、保育を実施するため、保育一般・保育実技等の基礎を学習し、保育協力者の資質向上及び連携を図る。	昨年度の反省会において、①保育や子どもに関する講義、②スキルアップ研修、③夏場の熱中症対策、④保育中における個別対応の可視化に関する個別研修の要望を受け、今年度の研修に反映させた。特に、保育中における個別対応の可視化の取り組みとして、「今日のママのキモチ」ボードを作製し、子どもが泣いたときにどのような対応したか、保育ノートを見なくても一目で分かるよう改善を図った。 今後も保育協力者との情報交換を重ね、より良い公民館保育体制を確立したい。	昨年度の反省会において、①保育や子どもに関する講義、②スキルアップ研修、③夏場の熱中症対策、④保育中における個別対応の可視化に関する個別研修の要望を受け、今年度の研修に反映させた。特に、保育中における個別対応の可視化の取り組みとして、「今日のママのキモチ」ボードを作製し、子どもが泣いたときにどのような対応したか、保育ノートを見なくても一目で分かるよう改善を図った。 今後も保育協力者との情報交換を重ね、より良い公民館保育体制を確立したい。
はじめの財政学習講座	1回 2時間 39人	講義「君津市の家計簿チェック～あなたもできる財政分析のポイント～」	君津市は税収減の一方で社会保障関係費の増加、公共施設の耐震化等の必要があり、厳しい財政運営の状況である。現在、経営改革推進課を中心に、公共ファシリテーションが推進されているところであり、公民館等社会教育施設についても見直しの対象となっている。この財政状況について、市民にも理解を深め、市民も財政分析の手法を身に付けていくことが、真に住民協働のまちづくりを実現していくこととなる。そこで市民を対象に君津市財政の現状と財政分析の視点及び具体的方法について学ぶ機会を持つこととする。	市の財政状況については市民の関心も高く、予想以上の反響があった。アンケートを集計したところ、今回の講座ではじめて公民館を利用した人が全体の10%を占め、年齢別参加者は20～30代が13%で、今後の新しい公民館事業の切り口であること、裏づけにもなった。 参加した市民からは、今後引き続き講座を開催してもらいたいという要望も多数出された。また、オンラインマンの結成を求めたい旨もあり、市民運動の教育的側面からの支援として、今回の成果をも今後、市民館事業に反映させていく必要がある。	市の財政状況については市民の関心も高く、予想以上の反響があった。アンケートを集計したところ、今回の講座ではじめて公民館を利用した人が全体の10%を占め、年齢別参加者は20～30代が13%で、今後の新しい公民館事業の切り口であること、裏づけにもなった。 参加した市民からは、今後引き続き講座を開催してもらいたいという要望も多数出された。また、オンラインマンの結成を求めたい旨もあり、市民運動の教育的側面からの支援として、今回の成果をも今後、市民館事業に反映させていく必要がある。

周西公民館 26年度事業報告(概要)

分類	事業名称	回数・延人数等	主な内容・題材等	目的・背景等	成果・課題等
地域交流促進支援事業	サークル団体研修会	4回 7時間 122人	・心肺蘇生法、AEDの取り扱いについて ・サークル活動、施設利用、長期施設利用の説明 ・「早分かり！公民館講座」	サークル活動のあり方、公民館活動の意義、地域課題等について、学習し、活動内容の資質を高めるとともに、公民館の利用について理解を促し、利用団体間での交流を進める。	前半は、AEDの使い方、後半は、公民館の成り立ちや目的を知ること、サークル、地域活動について改めて考えた。出席したとして1ヶ月以上前から周知したが欠席が多かった。出席したとしても、研修内容について出席者だけではなく、会員に周知するよう依頼しているが、なかなか共通認識となっていない。公民館施設使用における単なる連絡事項説明にとどまらないう、実生活や地域課題を考え、サークル運営に活かせるようテーマを選定しているが、今後も実のある研修となるようテーマや運営を検討したい。
	四季の味を楽しむ教室	9回 36時間 124人	・米麹づくり ・大豆を使った料理 ・太巻き寿司 ・おせち料理、ほか	文化文明の豊かな時代に生きている現代人にとって、伝統ある日本の食文化を忘れてはならない。教室を通じて祖父母から母へ、母から子へと引き継がれるべき食文化を紐解きながら学びあうと共に食育を身につけることを狙いとす。	料理教室というと、数や量をきちんと測って作ることが主流であるところを、基本を抑えることにより応用の利く料理方法を学ぶことが出来、教室生には大変好評であった。 また、地産地消の食材を有効に使い季節の旬を生かした献立は、日本の食文化を見直す良い機会になった。教室生の中には、君津市の特産である「はやとらり」や「むかご」など初めて見聞きしたという人もいた。教室終了後、サークル「四季の味の会」を発足し活動を開始した。
	大人と子どもとの交流広場	9回 29時間 121人	・なごなな ・囲碁 ・懐話術 ・将棋 ・茶道 ・体操 ・書道 ・手芸 ・折り紙	公民館利用サークルなどの大人が、日頃の活動の成果を発揮し、指導者として子どもたちとの交流を進める機会とす。併せて、子どもたちの学ぶ機会を増やし、地域の異世代交流の場とする。 公民館利用サークルがサークルの活動日、または調整した日に、小学生・中学生の体験活動を指導する。サークルは当日の指導と運営を行う。	夏休みの子ども居場所と体験の場としてサークルの協力により実施。取り組み開始を早めたいと、応募期間が短く、参加人数が見込めなくなる。応募者に受け入れ可能な連絡はしないため、当日来ない参加者に電話を入れたところ、「公民館から音沙汰がないため予定していなかった」と言われた。 今年度の事業は、参加者数のみを考えると前年の半数以下となつてしまつた(前年度子どもは106人参加)ため、うまくいかなかつたと判断せざるを得ない。
地域自治・文化振興支援事業	サークル文化活動支援事業		・サークル紹介ポスター掲 示 ・周西公民館だより掲 示 ・跨線橋及び館内展 示	サークル団体の作品や主催事業を展示して、君津駅跨線橋、ギャラリーを住民のふれあいの場として位置付けている。	・サークルや団体の学習成果を展示することで、住民や来館者に活動を広めることができた。 ・公民館だよりによりサークル紹介を周知することで活動が盛んになった。 ・展示団体が固定化しているため、他団体へ展示を呼びかけていきたい。 ・跨線橋の掲示板は利用が少なく、何も掲示物がない掲示板があるため、切れ目なく賑やかになるよう努力したい。

地域自治・文化振興支援事業	地域課題学習講座(やさしい認知症講座)	5回 11.5時間 105人	<ul style="list-style-type: none"> ・開級式「認知症サポーター養成講座」 ・脳トレに挑戦 ・認知症グループホーム訪問 ・認知症患者の徘徊と保護の事例 ・閉級式「学習のまとめ」 	<p>近年、認知症と診断される高齢者が増加している。高齢化社会の進展に伴い、患者数・比率ともに急増していくと考え、みんなで見守るとともに、本人も家族も安心して暮らせる地域を築いていくことが必要である。そこで本講座は、認知症を正しく理解し、地域や家族に認知症患者がいても適切に対処する知識や心構えを学ぶ場として実施する。(※従来実施していた「地域再発見教室」を終了し、代替として実施。)</p>	<p>今年度初めて実施のため、認知症への基礎的な理解を深め、「もし身の回りの人が認知症になったらどう支えていけばよいか」を考える入門編として企画していたが、「認知症にならないための方法を学びたい」として参加した方が多く、予感が生じた。しかし最終回まで学習を重ねる中で、「認知症にならない絶対的な方法はなく、なっただから始めたい」との声も上がった。人のためだけでなく、なっただから始めたい」との声も上がった。企画段階から地域包括支援センターの協力を得て、専門家から多角的に学ぶことが出来た。今後とも関係者とのつながりを密にし、講座内容を発展させたい。</p>
周西公民館だより発行事業	周西公民館だより発行事業	7回 17.5時間 27人	編集会議(7回)	<p>公民館主催事業や地域の住民の暮らし、子ども達や高齢者の活躍等を掲載し、住民の地域への関心と地域自治の振興に寄与する。また、地域の方に編集委員をお願いして実施する。</p>	<p>地域で活躍している人や団体を紹介するなどして、地域の情報が発信できた。 新しく編集員になられた方を対象に、公民館が発行する新聞とは何か、編集の行程、記事の書き方や心構えを学習した。</p>
第8回 周西公民館文化祭	第8回 周西公民館文化祭	10回 40.5時間 1921人	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会3回 ・正副分野長会議2回 ・バザー分野準備 ・文化祭本番2日間 ・展示分野片付け ・反省会ほか 	<p>地域活動の交流を進めるために、積み重ねてきた地域住民の文化・学習活動の成果や、公民館主催事業について発表・展示を行い、地域自治と地域文化の振興を図る。 自治会・小中学校・幼稚園・保育園の参加を依頼し、地域の機関、住民の交流を進める。</p>	<p>特別企画の実施はなかったが、高齢者施設の入居者から展示作品が出品されたり、子ども向けの出品が増えるなどの新たな動きが見られた。 文化祭の目的の一つである団体間の交流は、実行委員会や分野長会議を通じて促進しているが、毎年度同じ課題を持ち越しており、運営内容の共有が不十分な面が見られた。反省会の意見を次の年度の初回実行委員会に取り上げるなど、課題を持ち越さない仕組みを作っていく必要がある。また、公民館利用者だけでなく地域全体の文化祭として発展させていくため、自治会などの地域団体とも話し合いを重ねていきたい。</p>
高齢者学級(さなみ学級)	高齢者学級(さなみ学級)	10回 29時間 295人	<ul style="list-style-type: none"> ・「シニア世代とお金の話」 ・「健康寿命を延ばすカギ」 ・「脳卒中の予防」 ・「振り込め詐欺対策」 ・「グラウンドゴルフ交流」 ・「保育園と交流」 ・「正月お飾り作り、ほか」 	<p>いつまでも健康でいきいきとした生活をおくれるよう、学級生同士が共に明るく楽しく学び合う場を提供し、また、他の高齢者学級生との合同の学習を取り入れながら協力関係が築けるよう努める。地域老人クラブのリーダー養成を図る。</p>	<p>今年度の学級テーマにそって、大いに笑い、体を動かし、病にかからないうための体作りを目指し、心身共に健康であるための学習活動を展開した。 学級は3班に分かれて運営した。老人クラブとの提携で実施しているが、他の地区の老人クラブとの連携をどう図るかが今後の検討課題。 お飾り奠の調達が困難になってきたため、今後、考える必要がある。</p>
高齢者学級(なでしこ学級)	高齢者学級(なでしこ学級)	12回 29時間 160人	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「公民館と人・地域の幸せについて」 ・救命講習 ・フジオ体操 ・「歩いて学ぶ地域の歴史」 ・介護 ・保育園園児と交流 ・記録集づくり、ほか 	<p>周西地区の60歳以上で、公民館事業に初めて参加する方を対象に、地域参加へのきっかけづくりと、仲間作りを目指す。 また、単に個人の知識や能力の伸長を図るのではなく、お互いの知恵を持ち寄り、暮らしに活かせる知識や教養を身につけて、うるおいとゆとりのある生活を目指す。本年度も、学習内容も参加者による準備会にて決定した。</p>	<p>地域のことを意外に知らない学級生が多く、施設訪問などで知らなかった内容に触れて感じて入る事例があった。学級生は全体的に学習意欲が高く、学級開始前にはラジオ体操をしようとして約束し、支障のない限り実施した。今年度は参加者が少なくなるといえない日もあり、最終日には「あの日出席できなかったのが悔やまれる」等、学級生は口々に話していた。来年度は参加者が多くすぐす工夫を学級生からも考えたいとの発言もあり、次年度に向けての課題の研究も行っている。</p>

生活活性化支援事業	大和田家庭教育学級(スマイル学級)	11回 35時間 153人	<ul style="list-style-type: none"> ・アケリたわし作り ・はがき、記録集作成 ・移動学習 ・調理実習 ・講義「スツッキリ収納術」 ・「特別支援学級の理解を深める」 ・合同学習、ほか 	<p>大和田小学校の保護者を対象に、保護者同士のつながりを深めるとともに、子育て・子育てを中心にした家庭教育に資する内容及び学級生の興味関心に基づいた学習を展開する。</p> <p>年度当初に準備会を実施し、学習計画を完成させ、テーマを「楽しく学んで主婦力アップ」とし、主婦・母親・女性それぞれそれぞれの視点を進められた。</p>	<p>開級までの学級生が6名(うち新規参加1名)だったが、呼びかけを続け、年度途中で1名の参加があった。仕事の合間を縫って参加する方もおり、熱心な姿勢で取り組んでいた。学校も全面的に協力してくれた。</p> <p>今年度を通じて2名が最後の参加となったため、次年度に向けて募集方法や企画内容などを早い段階から考えた。このことを活かして入学説明会での周知など工夫している。児童の減少や保護者の就労意欲の高まりなど学級を取り巻く環境は厳しいが、異学年の保護者の教少ない交流の機会でもあるので、参加拡大を目指したい。</p>
たんぽぽ学級	11回 22時間 408人	<ul style="list-style-type: none"> ・レク交流 ・絵本について ・幼稚園&保育園について知る ・郷土料理を作る ・4学級合同学習会 ・親子で楽しむクリスマス ・記録集づくり、ほか 	<p>主に乳幼児期の子どもを持つ保護者を対象に、家庭教育に関する学習を行う。併せて育児期の保護者の交流の場としての機能を果たす。また、保育を実施し保護者が安心して学習できる環境を整え、子どもにも、子ども同士触れ合うことのできる場づくりをする。</p>	<p>地域的に外部からの転入者が多く、子育て中の母親は孤立しがちとなるが、学級に参加することで新に人間関係ができた。また、公民館保育実施により、短時間でも子どもから離れて同じ立場の仲間と話すことで、母親としての自分以外の自分を見つけていくことができるとの感想が聞かれた。</p> <p>学級生からは、もともと学級生の自主性に任せてほしいとの発言が聞かれた。第4回の保育園幼稚園の情報交換では準備会を実施し、参加者も多かったもので、興味のある題材には参加意識も高いと感じる。</p>	
坂田家庭教育学級(わかば学級)	11回 34時間 95人	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「暮らしの中の野の花を」 ・「気になるこれからかか教育費」 ・「子どもへの接し方」 ・移動学習 ・4学級合同学習会 ・スポーツでリフレッシュ ・クリスマス料理、ほか 	<p>家庭生活や子育てに関する諸課題を考え、同世代の子どもを持つ親同士の情報交換や、交流を図る場として参加者が学習しやすい環境づくりを支援する。子どももこのこと、学校や家庭のことについて話し合うことを大切にし、また専門の方の講義についても、事前に学習し講義後も「振り返り」を実施し、学級生全員が学級運営に携わる。さらに担当を設け、学級生同士の交流と仲間づくりを図る。このように家庭学習に関する様々な課題に取り組むが、自身の成長にもつながることとすることをねらう。</p>	<p>新学級生が3名入ったが、卒業生の穴は埋まらず、昨年度より1名減でスタート。途中、仕事の都合により更に1名減。少人数となったせいで、責任感が増し出席率は上がったが、講師にも申し訳ないし、交流も難しくなるので、今後は学級を合併するなど学級生を増やす対策が必要となるかもしれない。それぞれの回に担当を設け、学級生が司会・進行を務めるなど企画・運営が自主的に行えたことは、学級生同士の信頼関係・仲間関係を深める上で成果があった。記録集「のはら」を発行した。</p>	
思春期家庭教育学級(おしやべりカフェア)	7回 23.5時間 43人	<ul style="list-style-type: none"> ・受験を考える ・講義「収納を学ぶ」 ・4学級合同学習「自分探しの旅」 ・調理場見学 ・調理実習 ・中学校新入生の保護者と交流 	<p>思春期の子を持つ保護者は、急激な子どもの変化に戸惑い、悩みや不安を抱えやすい。したがって、適切な学習機会を親供と、保護者のつながり作りの支援が必要である。小学校家庭教育学級(2学級)と連続した学習の場として、次の3点を目標に実施する。①思春期の子育ての課題と必要な知識や考え方を学習する。②大人への段階を上っていく子どもを支援し、自らも親としての生き方・子育てのあり方を客観的に捉えよう。③保護者同士のつながりを作り、共に学び語り合う関係を深める。</p>	<p>準備会を実施し、思春期の保護者の課題に沿った内容を計画した。特に、高校見学は今年度新たに実施し、学級生が高校生だった頃との比較ができて好評だった。調理場見学も、実際に給食を試食することで、安全に配慮した美味しい給食への信頼が高まったようだ。</p> <p>学級生も新規参加が3名おこり、拡大傾向にあるが、仕事の都合などで全員集まることが出来なかつた。また、受験生の保護者に配慮し12月に終了したが、開始が9月と遅かつたため、今後は終了が早い分、開始時期も早めていきたい。</p>	

青少年支援事業	すざい子ども教室	13回 26時間 198人	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズクッキング ・夏の映画鑑賞会 ・書道教室 ・春休みアート教室 ・多目的ホール開放、ほか 	公民館を長期休業中の子ども居場所として利用する。 小学校3・4年生を対象に実施し、仲間との協力や家庭生活の大切さを学ぶ機会とする。	映画鑑賞会は、昨年度1本を2本とした。「ピノキオ」は笑い声が聞こえて聞こえ、子ども達も楽しむことができたし、「アニメ落語館」は落語だけでは難しいが、アニメで分かりやすく楽しめた。感想がでた。 キッズクッキングは、少子化に伴い小学校高学年までを参加対象にしてはどうか？また、参加費は300円は献立にもよるが運営上非常に難しかった。次年度は、早めの企画と早めの募集に心がけたい。参加者の声に「自分で作るご飯は美味しい」とか「お母さんが台所にいたら手伝ってあげたい」などの感想が聞かれたことは成果であった。
	子どもバスハイク	1回 8時間 27人	現代産業科学館(市川市)、西部防災センター(松戸市)へのバスハイク	周西地区青少年相談員連絡協議会との共催事業である。26年度に公民館主催事業「子ども生活体験教室」の移動学習に相談員も同行してもらったところ、好評だったため、今年度からは独立した事業として実施することとした。気候のよい時期にバスハイクを実施し、相談員と小学生の交流の場を作り、今後の事業への参加拡大を目指す。	現代産業科学館では様々な体験を通じて楽しく過ごしたようだ。特に雷の放電実験は迫力があった。西部防災センターでは地震体験で酔ってしまった児童もいたが、消火体験などは仲間同士で協力し合っただけで済んだ。金銭的な負担がなかったこととから、3・4年生を中心に多くの参加があった。また、通常の移動学習では西公民館を乗降場所としているが、相談員の提案で坂田青年館も加えたところ、坂田小学校区からの参加が7割を占めるなどの効果が見られた。今後も工夫していきたい。
	子ども生活体験教室(すざい子どもキャン)	9回 44時間 73人	<ul style="list-style-type: none"> ・計画作成 ・現地下見 ・事前研修 ・テント実習 ・キャンプ当日(カレー作り、キャンプファイヤー、レク、昆虫観察など) 	周西公民館では、開館以来「子ども生活体験教室」を実施し、生活に関わるさまざまなテーマで体験学習を展開してきた。本年度は、児童から「宿泊でのキャンプを行いたい」という要望が多く寄せられたため、新たにキャンプとして企画実施した。	周西地区は相談員の人数が少ないこともあり、事業展開が低調だったが、今回キャンプを実施したことで、事業に幅が生まれ、また、怪我や事故もなく全日程を終了できたこと、子どもたちにとって日常生活ではできない活動の場を作ることができた。一方、初めてのキャンプの近場の君津緩衝緑地で行ったが、無料で使用できるものの照明等の設備が整っておらず、投光機等を持ち込んだ。キャンプのプログラムを練ることにより、備品借用や運搬、設営に労力を割かれたことが課題。会場の選定や移動手段の確保についてよく検討する必要がある。
	青年教室(若者チャレンジひろば)	6回 12時間 19人	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りほがき ・美しい言葉遣いを学ぶ ・和食作り ・卓球大会 	周西公民館対象区域は、独身寮が多く立地する等、市内でも青年の多い地区である。地区内在住・在学・在勤の青年を対象に、生活課題の学習やレクを通じて青年同士の交流を促すとともに、地域への愛着を深めることを目的に実施する。また、地域社会との接点を作り、地域活動のきっかけを目指す。	準備会で参加者の意見を募って学習計画を立てたため、毎回熱心に取り組むことが出来た。昨年準備したものの実現できなかったサークル化についで、引き継ぎ取り組んでいく下地にはなっていた。一方で、参加者数が少なく、また仕事等のためになかなか集まることも出来なかったのが残念だった。今後は学級の情報発信や募集方法について工夫すると共に、1テーマに絞って短期的に行うなど試行をしたい。
	親子体験教室	8回 20時間 253人	<ul style="list-style-type: none"> ・ドッジボール ・勾玉づくり ・流しそうめん ・ハンバーガー作り ・手作りおもちゃ ・三船山ハイキング、ほか 	親子で共にスポーツや調理等を体験することにより、親子のつながりや他の親子とのコミュニケーションを築く。	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や運動、工作など様々な体験を通じて親子の交流を深めることができた。 ・学級生が積極的に意見を出し合っただけで進める体制作りが必要だ。 ・去年よりは開始が遅れようにはなったが、それでももつと早く集まるようにしたい。

青少年支援事業	平成27年 西地区成人を祝う集い	12回 29.5時間 177人	実行委員会10回(企画、記念品検討など)、リハーサル、成人を祝う集い本番	成人を祝った若者を励ますとともに、地域住民とのつながりを広げる。実行委員会を組織し、準備・運営を進める中で、これまでの人生を振り返り、大人として歩んでいくためのさまざまなことを考える学習の場とする。また、青年層と公民館をつなぎ、学習や、地域社会へ踏み出す機会を作る。	企画や企業など、職員で誘導しながらも実行委員で自主的に決めていけるよう進めたが、なかなか決まらなかった。期限を切った。昨年からの集いの歴史や意義について、企画を祝う集いの内容を考える前に実行委員の集いの意義を明らかにした結果、内容もそれに沿ったものとなった。地域実行委員も、看板作成、迎え花受けこみ、写真撮影などで活躍。今後は、独身寮居住者との関係づくりに取り組んでいきたい。
青年料理教室 (和食ツク！)	3回 6.5時間 17人	①野菜を切り切る ②だしが効いた本格料理 ③手作り和菓子	家事になじみの薄い青年に対して、実習を通じて関心を高め、基本的な技能を身につけることを目的に実施する。今回は和食をテーマとする。近年、栄養バランスのとおりやささなどから注目され、さらにはユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、和食が注目を集めている。しかし、日常生活の中では、下ごしらえや出汁とりなど負担とみなされ、作る機会が少なくなってきた。そこで、今回は一人暮らしの若者や若い主婦を主な対象として、和食を簡単に作るためのコツを学ぶ教室として実施する。	当初「若者チャレンジひろば」の一部として企画していた調理実習を発展させ、新たに募集した事業だが、これまで想定していた「独身の青年」だけでなく、「仕事で調理をする機会がある」「主婦が料理の種類の増やしたい」「引越してきたばかりなので仲間を作りたい」など多様な理由で参加した人がおり、にぎやかにかに実施することが出来た。講師にも分りやすく明しく指導していただき、好評だった。参加者は仕事等でも欠席しがちであり、全員揃いづらいため、よりいっそう参加者を増やしていきたい。	

周南公民館 26年度事業報告(概要)

分類	事業名称	回数・延人数等	主な内容・題材等	目的・背景等	成果・課題等
地域交流支援事業	公民館利用者研修会	2回 10時間 64人	利用者研修会 (体操やレク/利用団体の意見交換) 移動学習(横浜方面)	【目的】公民館の設置目的、役割等について再確認する。公民館利用者同士の交流を深め、相互学習の場とする。各団体、サークルの自主的活動を促すための助とする。	【研修会】 ・2部制での実施によって、8割以上の団体が参加。 ・公民館の基礎理解についての講義は、今年度担当職員が実施。今後より身近な話題として取り扱うことができたように感じる。今後も、手法を検討しながら、公民館についての住民(「利用者」)の理解を深めていく活動が必要。 【交流会】 ・三溪園見学で歴史的教養が深まった。防災センターは地震体験や煙体験ができた。見学を通して公民館の防災設備の内容を再確認できた。 ・参加団体が全体の半分程度だったため、より多くの団体の参加が見込めるような見学内容の計画が必要。
	周南みどり塾	18回 55時間 40分 126人	開級式・閉級式 講義・実習・班活動 里山について考える・周南の草花観察/里山体験 他	【目的】公民館の裏山や周南地区の自然を活かし、「里山」についての理解を深める。また、实际生活の中で、自然との共生に向けた行動につながるよう、地域自然環境・生活環境への意識を高める。	・講義、各項目に沿った説明、公民館のフィニッシュを生かした活動・実技などバランス良く取り組んだ。参加者から「大人の学び舎」である公民館事業として充実していたと非常に高い評価を得ている。 ・幅広い対象を対象に活動するため全体活動に加えて班活動を実施。範囲が広すぎ焦点が定まらなかつた印象があるが、参加者の意識としては、少人数で充実した内容で学びを深めたこと。次年度の運営方法も題材に合わせて工夫したい。 ・本事業も3年目を迎えることから、次年度は企画段階から前年度参加者に声をかけた企画準備会などに取り組み、参加者がより生活に活かし身近で活動することに資する事業として発展させていく必要がある。
地域自治・文化振興支援事業	周南の文化芸術伝承～松本ピアノ修復講座～	34回 125時間 234人	開講式・講話 ピアノ修復作業/松本ピアノコンサート	【目的】・松本ピアノを通じて、地域の文化への理解と関心を高める。貴重な周南の文化技術を、周南地区住民の手で記録していく。	・松本氏の協力の元、松本ピアノのふよふよもいえる周南地区ならではの事業となつている。 ・工程が長く、短期間では終わらない取り組みのため、他の一般的な講座とは異なる取り組みや職員体制が必要となつている。 ・修理が完了したときの成果のまとめ方、記録の残し方や、どのように地区住民の松本ピアノへの関心を高めていくかが今後の課題である。 ・現状では継続的な参加者は2名であるが、5名程度までならば受け入れ可能であることから、継続的に参加できる参加者の増加に努めたい。

青少年支援事業	周南少年キャンプ	1泊2日 24時間 10分 79人	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年相談員会議(内容/役割分担/安全管理講習等) ・事前研修会 ・キャンプ当日 (水遊び/野外炊飯/出し物発表会/ナイトハイキング等) ・感想文集発行 	<p>家庭を離れての大自然の中で、キャンプ実習を通して豊かな人間性を育み、団体行動や共同作業の楽しさや難しさを学ぶ。学年間や地域の大人との交流を深める。</p>	<p>雨で大きくプログラムを変更しての実施となったが、適切な判断を行い実施できた。共同生活を行う事で、概ね事業目的は達成されたが、団体行動や学年間の交流を深める点で改善の余地は残る。喘息発作や遊泳時、調理中の怪我等が心配されたが、事前・当日指導で参加者の安全管理研修もとても有効であったと考える。これまでの指導者の安全管理研修も新たな取り組みが見られた。次年度は青少年相談員も任期3年目で経験も蓄積されているため、より良いキャンプとなるよう準備を行いたい。</p>
青少年支援事業	青少年バスハイク	1回 8時間30分 18人	<ul style="list-style-type: none"> ・はまぎん子ども宇宙科学館 (神奈川県横浜市磯子区) ・カッブスードルミュージアム (神奈川県横浜市中区) 	<p>周南地区青少年相談員との共催事業。社会見学により見聞を広め、異年齢間の連帯を深める。</p>	<p>参加申込が少なく開催が危ぶまれたが、参加者同士の積極的な呼びかけにより開催人数の20名に達することができた。車内でしおりに掲載したクイズの答え合わせをすることにより、1日の見学の学習内容を確認することができた。</p> <p>「はまぎん子ども宇宙科学館」は、プラズマ宇宙が改修中のため施設見学のみに学んでいたが、体験スペースも豊富で子どもも飽きずに見学できた。「カッブスードルミュージアム」は、子どもも全員がマイカッブスードルラリーに参加し作品を作成できた。参加者がより多くなるよう募集方法に工夫をしていきたい。</p>
青少年支援事業	子ども教室「わいがやひろば」	7回 14時間5分 129人	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の近くを歩こう ・工作教室 ・自然と触れ合おう ・君津ふるさとかるた取り ・実験教室 等 	<p>工作や自然体験などの体験を通じて、創意工夫の発想力を養い、地域の大人との交流を図る。また、学年間の交流と友達づくりの場を提供する。主に平日休みや短縮授業の日に実施する。</p>	<p>今年度は前年度より回数を増やし7回とした。公民館周辺の樹木に接したりかき取りを実施するなど、多くの新たな内容を取り入れられた。</p> <p>「何かを作る」という内容が多かったため、更に幅広い体験ができる工夫が必要。班分けをして活動するように考えていたが、実際にはあまり班活動としての機能を果たしていなかった。他学年との交流をより深めるためにも班別に行動しやすいう内容を考えたい。</p>
青少年支援事業	周南地区成人を祝う集い	12回 23時間30分 80人	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせ会 ・実行委員会 ・当日 	<p>人生の節目を迎える20歳の青年の門出をともに祝い励ます行事を通じて、青年が大人になつた自覚を持つこととできる機会、並びに地域の人々との交流を深める機会を捉え、もって青年教育の推進と地域の活性化を図る。</p>	<p>実行委員を中心に内容を作り上げ、和やかな雰囲気で行進してきた。同窓会色を強くしないことを配慮したスライドショーの内容などから「中学校の卒業生」ではなく、「地域の新成人」としての意識が伝わった。</p> <p>実行委員の発案によりコーナーとお菓子の記念品を配布したところ、新成人には好評であった。実行委員長を主とした特定の実行委員に負担がかかっていたため、もう少し負担を分散させようとした配慮ができて良かった。</p>
地域交流促進支援事業	趣味教養講座「エコクラフトバッグ作り」	3回 9時間30分 47人	エコクラフトバッグ作り	<p>【背景】周南地区は、新興住宅地を抱えているが、その地域での公民館の認知度は高くはない。よって、公民館に初めて来る人が興味を持つような公民館事業が必要となつてきている。また、周南公民館では、近年サークル数が減少傾向にあり、活発な学習活動を周南地区で推進するためには、サークルを増やすこともひとつの方法ではないかと考えられる。</p> <p>【目的】「公民館の入り口」としての講座とした。</p>	<p>指先と頭を使いながら、編みこんでゆく作業のため、時間が進むにつれ会話のペースが減り、指先に力が入り真剣に取り組む姿が見られた。当初2回の講座で予定していたが、是非もう1日との声が上がった。追加で開催することになった。</p> <p>講座終了後、サークル活動として継続したいとの声もあり、サークルが立ち上がりられるよう支援をしたい。</p> <p>今後も「公民館の入り口」として地域住民に親しまれる講座の実施が望まれる。</p>

生活活性化支援事業	農業講座	4回 8時間50分 55人	農山遊歩道草刈 ・周南地区文化祭協力 ・学習会	これからの社会を展望するなかで、周南地域の農業課題に積極的に取り組む学習機会の提供を図る。 公民館裏山の草刈を6月と10月に実施。	講師が数年前から取り組んでいるジャンボかぼちゃづくり。今年も宮下保育園でハロウィンパーティーの盛り上げ役となった。 有害鳥獣被害の対策についての体験談やイノシシの撃退法を講座生が体験を生かし学習会を実施。 文化祭時にポン菓子機の故障でポン菓子断念。露天商と販売品目があぶったりと段取りの悪さが目立ってしまった。
すなみ幼児家庭教育学級 (通称 わんわん学級)	17回 39時間 45分 332人	準備会 ・スポーツ交流会 ・移動学習 ・調理実習 ・子どものしつけ ・手作り体験 ・記録集製本、ほか	【目的】地域のなかで子育てをすすめる親たちの仲間づくりを進める。また、子育てにかかわる様々な問題について、話し合いや学習を行い、その改善・解決を図る。あわせて、親の生き方や、地域で支えあえる関係についての学習を深める。	・1年間の活動を通して、学級としての連帯感が高まり「子育てをすすめるための仲間づくり」を促進することができた。 ・趣味的な内容から子育てに直接関わる内容(しつけ・栄養など)まで幅広く取り組むことができた。しかし、やや学級生の課題意識に沿った内容に偏重がみられるため、公民館からの課題意識の投げ掛けをバランス良く構成する必要がある。	
子育て土曜くらぶ	15回 37時間 45分 545人	・さつまいもの苗植え ・七夕飾り作成 ・ミニプール水遊び ・運動会 ・さつまいもほり ・季節の遊び、ほか	【背景】少子化・核家族化により、子育て中のママの機会が減っている。 【目的】子育て中の家族が自然の中で様々な体験をすること、子どもとの情操教育を促し家族間のコミュニケーションを深め、地域の家族の交流、仲間作りを目的とする。また、父親の育児参加を図り、子どもたちの成長段階を知る機会とする。	周南公民館の周辺環境(裏山・畑・駐車場など)を生かして、季節に応じた様々な体験活動を実施。当番班を設定し運営したことで、参加者それぞれが充実感を持って活動することができた。「あそびで遊ぼう」は裏山で落ち葉を使った新たな企画として実施し、他ではできない体験として非常に好評であった。休日に乳幼児と親子で活動できる公民館事業は他ではあまり多くないこと、広い範囲からの参加が見られる。一方で30組の参加となり、会場のまとまりや進行に支障をきたす場面もあり、適正な人数の再検討が必要となった。	
周南家庭教育学級 (通称 のらり〜ず)	13回 37時間 30分 153人	・知りたい聞きたい学校のことあれこれ ・今考えたいこれからの「お金」のこと ・クラフト作品づくり ・グラウンドゴルフ ・周南まち散策 ・私たちの健康 ・移動学習、ほか	【目的】子育てにかかわる様々な問題について、話し合いや学習を行い、その改善・解決を図る。また、親の生き方や、地域で支えあえる関係についての学習を深める。子育てをすすめる地域の仲間の交流を図る。	・子育て、自分や家族のことに、体験・講義など様々な手法で学級を実施することができた。「周南まち散策」や地域婦人会との交流など、地域への関心や関わりを深める内容にも取り組むことができた。今後、これらを活かした地域への活動につながるよう、支援を継続する必要がある。 ・学級生の課題意識に沿った内容と、公民館からの課題意識の投げ掛けをバランス良く構成することができた。 ・少しずつ参加者が増加し、安定した実施となっている。学級生から、友人に講義の内容を伝えていく様子もみられ、直接の学級生以外も含めて、「地域の仲間の交流」の推進に貢献していると思われる。	
周南寿学級	10回 38時間 35分 277人	・アコーディオンと歌 ・移動教室 ・竹細工 ・調理実習 ・グラウンドゴルフ大会 ・異世代交流 ・介護保険について、ほか	【目的】高齢者が心身ともに健康で生きがいのある充実した生活を送るための学習を進める。	・今年度6名の加入があり、念願の学級活性化を図ることができた。 ・数名の学級生が「ふるさと運動 郷土文化継承活動「お飾りづくり」」の講師として、また裏山にある南山荘の茅葺屋根草き替えの指導者として地域住民とのかかわりを持つことができた。 ・学級終了後に「今日の感想」を記入してもらっているが、数年前までは鉛筆を持つことをとても億劫がり4〜5人の提出しかなかった。現在は参加者ほぼ全員が記入、提出をしてくれている。	

生活活性化支援事業	健康講座	2回 5時間 47人	<p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防 ・話し合い学習 	<p>【目的】高齢社会において身近な課題である認知症について、その発症メカニズムについての正しい理解を深め、自身や家族、大切な人が健康でいきいきと暮らすために、認知症予防のために日常生活でできることについて学ぶ。</p>	<p>「認知症」を健康学習として自身や家族の「予防」という観点からとらえ実施。これまで公民館主催事業に参加がなかった方の参加も見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義だけでなく、グループワークや実験もあり、充実した内容となった。 ・学習を進めることで、マスコミなどの断片的な情報では得る事のできない、新しい理解に基づく認知症のイメージを持つ事ができたのではなかろうか。より生活に密着した疾病として認知症をきたらえたことで、今後の生活に今回の講座が活きることを期待したい。 ・発言や感想用紙からは、参加者の意識の高さがうかがえた。次年度は、今年度参加者に声をかけテーマを設定するなどの方法を通じて、より健康への関心・理解が深まるよう実施したい。 ・事務局長や各役員との連絡調整を図ることで、「育てる会」及び事務局の活動が円滑に進むよう支援することができた。 ・ことも1110番の家は、協力家庭・事業所が増加し112軒となり、地域全体での協力体制が継続されている。 ・交流事業と「いやさか踊り」には、子どもから大人まで数多くの参加があり、地域の連帯感向上を図ることができた。より早い時期から見通しを持って取り組む体制を整えたい。 ・事務局員の固定化が継続的な課題だが、小中学校PTA役員との連携により一部改善の兆しが見えた。継続的な会の発展のためにも、さらにはこの課題に取り組みむ必要がある。
図書館資料購入	中央図書館周南分室事業		<p>図書館活動の充実 (新規利用申請受付/新刊本購入/リクエスト受付、貸出・返却など)</p>	<p>中央図書館の周南分室として住民の読書意欲の高揚を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の充実を図り、手軽に借りられるように書籍の配置に心掛けた。 ・日常的な整理・点検、毎月1回の職員による点検・配架整理・図書配置換え作業に取り組み、より使いやすい図書室とすることができた。 ・ロビーへの新館本の配置や図書館関係の掲示物の設置など図書室に寄らなくても目に入るような工夫をした。 ・宮下保育園への団体貸し出しに積極的に協力し、園児の読書推進を図った。あわせて、園児が公民館や利用者とのふれあう機会
青少年健全育成活動	周南地区青少年を健全に育てる会への参加、協力により取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・各種会議 ・夏期防犯パトロール ・交流事業(いやさか踊りへ参加) ・あいさつデイの実施 他 	<p>心身に健全な青少年の育成のため、温かい地域連帯感のもとで、地域の環境浄化をはかるとともに、健全育成のため条件整備を進めることを目的とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局局長や各役員との連絡調整を図ることで、「育てる会」及び事務局の活動が円滑に進むよう支援することができた。 ・ことも1110番の家は、協力家庭・事業所が増加し112軒となり、地域全体での協力体制が継続されている。 ・交流事業と「いやさか踊り」には、子どもから大人まで数多くの参加があり、地域の連帯感向上を図ることができた。より早い時期から見通しを持って取り組む体制を整えたい。 ・事務局員の固定化が継続的な課題だが、小中学校PTA役員との連携により一部改善の兆しが見えた。継続的な会の発展のためにも、さらにはこの課題に取り組みむ必要がある。

小糸公民館 26年度事業報告(概要)

分類	事業名称	回数・延人数等	主な内容・題材等	目的・背景等	成果・課題等
地域交流促進支援事業	公民館利用者団体・懇談会	5回 13時間 25分 154人	・利用者団体・サークルによる懇談会 ・館内外の清掃作業 ・根拠研修会	公民館利用者団体・サークルによる相互の交流や公民館の利用に関する理解を深めて公民館活動の発展を図る。	定期利用団体・サークルの「利用者懇談会」を夜間と昼間2回実施した。施設の利用について協議し共通理解を図り、利用方法の改善を図った。グループに分かれて意見交換を行い、サークル・団体の活動内容を紹介することで、新たな発見があり利用者同士の交流が図れた。調理室の利用については、後片付け等にばらつきがあり利用方法について各グループで協議することとした。 定期利用団体・サークルと公民館職員が共に館内外の清掃作業を行ったことで環境整備が図られ相互の交流と連携が図れた。
	趣味教養講座	2回 6時間 13人	・樹脂粘土で花を製作 ・絵の具での色付け	趣味教養講座事業は、自分で物を作る喜びを体験し、創造性を育てる。参加者相互の交流を深める機会とし、挑戦意欲や達成感を目指す。	初めてふれる樹脂粘土で楽しみながら春のお花を制作した。最初チューリップ・カラー・多肉植物の3点をアレンジした。最初は緊張して作っていたが、段々と学級生同士が打ち解けて教えあいながらの制作となった。出来上がった喜びと他の作品に挑戦してみたい希望があった。 講座の希望者は多かったが、2日間連続の学級のため予定があまり参加できない人がいた。周知期間をとり、日程は週1回程度で実施できるように調整する必要がある。
地域自治・文化振興支援事業	公民館だより発行事業	12回 30時間 20人	・年4回発行	公民館が信頼され、積極的に利用・活用されるには、地域住民の結びつきを深め、住民とのコミュニケーションを確立していかなければならない。その一つとして館報がコミュニケーションづくりに大切な役割を果たすと思われ。そこで地区内の出来事・行事・教育・産業及び文化活動を多面的にとらえ、地域の情報紙として内容の充実を図るとともに、住民の参加を保障するために、「小糸公民館だより編集委員会」を組織して紙面づくりを行う。	多くの地域の方々に紙面に登場してもらった。読者から原稿の募集を行い、地域の方にも紙面づくりに参加してもらった。「こいとマイスター」の記事では、地域であまり知られていない職人・産業を紹介し、地域の再発見につながった。また、今後の公民館事業につながる出会いもあった。「小糸気流」では、戦時中、戦後の体験を紹介してもらい、多くの反応があった。特に地域に移り住んできたり、若い世代は知らない方が多かった。 発行の時期が毎年同じなので、時事的な記事が同じになってしまっている。発行月や紙面構成を検討し、紙面づくりの充実を図りたい。
	第43回小糸地区文化祭	9回 25.5時間 3184人	・実行委員会を組織 ・特別企画展示「小糸の力 ラー物語」 ・バザー、音楽の集い、健全育成標語の表彰、かるた大会、模擬店、作品展示、特別展、テニス体験、芸能の集い、お化け屋敷、小糸合同俳句会、ほか	文化芸術等の成果発表の場及び地域交流の機会とする。 テーマ「集う楽しみ 学ぶ喜び つながる小糸」	特別企画展示は「小糸のカラー物語」と題し、小糸地域の産業やその歴史について理解を深める目的で開催した。「カラー」生産日本1位であることや基本的な知識を学んだ。関連してサークルの協力により「カラーを祭せ」で、クイズラリーを行いカラーに親しむ機会となった。 今年度は体験コーナーが多くあり、サークル紹介や自分で作ることものおもしろさもあり、滞在時間が長い人が多かった。減員の高齢化により活動が縮小している団体があり、作品数の減少につながるが、公民館が活動していない団体も参加できよう周知方法を検討したい。今後も自治会や関係団体と連携し、地域の文化の発表の場として活動を広げたい。

青少年	成人を祝う集 い	9回 19.5時間 245人	・実行委員会 全9回 集いのプログラム検討、 記念文集の検討、記念品 作成 ほか	人生の節目を迎える20歳の青年の門出を共に祝 い励ます行事を通じて、青年が大人になった自信を 持つことのできる機会、並びに地域の人々との交流 を深める機会を提供し、もって青年教育の推進と地 域の活性化を図る。	実行委員が集いの趣旨を理解し、積極的にかわり運営をお こなった。集いで、「これまでの人生の振り返りと、将来をど う過ごしたいか」アンケートを実施。 アンケートは冊子にして参加者や来賓に配布し、新成人を知っ てもらう機会にもなった。 集いの終了後は地域有志の協力により、もちつき大会を開催。 温かみのある集いの一方、同窓会色が出てしまいう問題点があ る。毎回、十分に話し合っていく必要がある。
	じゃれっこあそ び	6回 3時間 31人	・手遊び ・リズム遊び ・わらべ歌 ほか	リズム遊びやわらべうたなど、親子の関わりを深める機会とする。	乳児の親子参加が多く、手遊びが難しい場合もあった。親世代 がわらべ歌などを知らない世代になっており、子育て文化の変 化を感じている。次年度以降、親世代の傾向を踏まえつつ、親 子のコミュニケーションを深めるための方策について、検討し ていく。
	ママチャレンジ	6回 9時間 45分 80人	・お試し心理学 ・簡単！おいしい！お弁当 作り ・フェルトの小物作り ・太巻き寿司作り(番外企 画)	子育て中の親の持つ様々な特技を教え合う事で、参 加者がお互いに自分の可能性を広げる機会及び仲間 作りを進める機会とする。 講師については先輩保護者の中でも、小糸公民館の 主催事業やプレイルームに関わったことのある方に 依頼。保育実施。	今年度は新たなリーダー層発掘と、子育て世代とその上の世 代の世代間交流を踏まえての実施となった。講師役の参加者が ママチャレンジ参加以降、新たな一歩を踏み出したたり、より学 級活動に積極的になった等の変化があった。
	夏のゲーム大 会	1回 2時間 48人	・実施ゲーム 「うさぎのにーの」 「こやぎのかくれんぼ」 「にじいろのへび」ほか	プレイルームで日常使用している玩具を通じて、異 年齢交流を図る。あわせて企画運営に子育て中の親 が関わることで、人間関係づくりと地域の教育力向 上を目指す。 ※当日の スタッフとして、上総高校バスケットボール部有 志、プレイルーム運営委員会有志が参加。	会場を2階全体に広げ、ゲームを2セット準備し、短時間で勝 敗がはきつきづくゲームを選択したため、子ども達が沢山ゲー ムを楽しむことが出来た。地元上総高からもスタブの協力を 得た。今後上総高だけでなく小糸中の生徒からの協力を得るな ど検討したい。
	夜のプレイ ルームde映画 会	1回 1時間 10分 57人	・雨降り小僧 ・金のおの 2作品上映	映画鑑賞を通じて、親子および異年齢の交流を図 ると共に、プレイルームについての関心を深める機 会とする。	夏休み企画として実施。これまでで最も多くの参加者が来 場。今回はポップコーンの配布や水風船つりを取り入れ、映画 会終了後の緑日風企画として実施した。次年度もひな壇から高 隊等の協力が得られれば実施を検討したい。一方で幼児から高 学年まで対応できき作品の選定が難しく、年齢別に上映時 間を分ける、作品を事前に周知する等の工夫をすすめるなどの配慮 が必要である。
	プレイルーム 文化祭企画 「お化け屋 敷」	2回 8.5時間 506人	・お化け屋敷の実施	プレイルーム利用者相互の交流と、プレイルームへ の関心及び周知拡大を図る。 昨年度実施後、ほっこ隊や利用者から「お化け屋敷 と一緒に企画したい」との声があった。今年度は利 用者同士の連携・交流を図りながら、子育て中の保 護者の視点を生かして実施。多くの方々に参加しても らうため二日間開催とする。	二日間の開催となり、多くの方が参加。今回の大きな成果 は、プレイルーム利用者であったお母さん方が企画運営したこ とである。それにより子どもも大人も楽しめる企画となった。 また当日の手伝いに地元の子どもの小学生達が参加。次年度はち らいたつとも利用している子ども達や保護者に声をかけ、企画する ことも可と感じた。普段プレイルームにこない子どもや保護者 が足を運ぶきっかけになっているので、今後も運営方法などを 考えながら企画したい。

<p>子育てママのためのライブイベント</p>	<p>1回 2時間 80人</p>	<p>・ライブイベント及びミニワークショップ ・ステージ発表(ダンス、マジック) ・作品展示(趣味のコレクション、写真、手芸作品、子育て漫画等)</p>	<p>乳幼児を持つ親子がアートの鑑賞を通して、豊かな感性を育み共に豊かな時間を過ごすことができていく。あわせて、当日の運営についてプレイルーム運営委員会(ひなたぼっこ隊)および幼児家庭教育学級生が一緒に取り組むことで、子育て中の家庭的な活動につながるが、きょうこがけ作りを目指す。 ※小糸幼児家庭教育学級と合同開催</p>	<p>ひなたぼっこ隊の企画に幼児教育が参加した企画。予想より大きな人数が参加した。ライブイベント自体は小糸地域の特色を反映させた趣しく美しい絵が完成していき過程を楽しむことが出来た。このように新しい芸術に触れる機会は少ないため「今後親だけのライブイベント等も計画してはどうか」「もっと大きい子供(小学生)にも見ってもらってよいいのではないか」という意見も出された。</p>
<p>こいとオトナ女子会～3rd season～</p>	<p>1回 7時間 20分 55人</p>	<p>・グループ発表(ダンス、マジック) ・作品展示(趣味のコレクション、写真、手芸作品、子育て漫画等)</p>	<p>子育て中の親が自分自身の生き方に自信を持ち、併せて地域の豊かな人間関係作り、子育て支援の拠点作りを目指す。※女子会終了後、交流会を実施 ・それぞれの趣味、特技を発表する場を設ける。 ・小糸公民館プレイルームに関するグループや利用者相互の交流の場とする。 ・プレイルームへの理解を深める。</p>	<p>今年度で3回目の開催。参加者はやや少なめではあったが、利用者がお互いの知らない一面を知る、子育での和を広げ深めるといったねらいは達成する事が出来た。企画運営面も、参加者が役割分担をし、主体的な取り組みができた。作品・発表を出す側だけでなく、見る側の意欲を感じることでもできた。双方展示発表のほか、交流会も実施した。</p>
<p>おしゃべりタイム</p>	<p>2回 4時間 47人</p>	<p>・グループごとによる子育てトーク ほか</p>	<p>テーマ別トークを通じて、子育て中の保護者の悩みや不安を解消し、豊かな人間関係づくりと地域の教育力向上を目指す。 備考：企画運営はプレイルーム運営委員会が行う。また子育て中の保護者がゆったりと語り合えるよう保育を実施する。各ティータイトム終了後、参加者が引き続き交流出来るよう、会場の開放を行う。</p>	<p>新体制になった企画運営。過去の事業企画での反省も踏まえながら企画立案することが出来、ひなたぼっこ隊の企画、運営力の向上につながった。 参加者については、企画内中の雰囲気も良く、それぞれ自身自身のことや子育てについて色々話し合っていた。また企画終了後に交流を深める姿も見られた。</p>
<p>プレイルーム運営委員会(ひなたぼっこ隊)活動支援</p>	<p>19回 38時間 149人</p>	<p>・ひなたぼっこ通信について(2回発行) ・室内装飾について ・おしゃべりティータイトムについて</p>	<p>利用者の視点を生かしたプレイルーム作りを目指し、地域の子育て中の親と、職員とが定期的に話し合いの場を持ち、プレイルームの環境作りや交流事業について企画検討を行う。運営委員会の活動中あわせて保育を実施する。(原則毎月第2、第4木曜日開催)</p>	<p>新体制となり、新しいメンバーも加わっての活動となった。原点に帰るといふことで年度当初からプレイルームで自分たちのやりたいこと、出来ること、気になることを出し合い、年間計画を作り上げ、運営していくことが出来た。またプレイルームの壁面装飾やおもちゃ作りなども行い、施設の雰囲気にも貢献できた。</p>
<p>春休み企画 アートクレイク ラフトでデコ皿づくり</p>	<p>2回 3時間 55分 22人</p>	<p>・樹脂粘土で魚、貝、海草を作る</p>	<p>プレイルーム周知と利用向上を図ることを目指す。今回は保育園・幼稚園、小学校が春休みとなる時期に、就学前幼児および小学生対象に事業を行い、プレイルームへの関心を高める。</p>	<p>春休み企画として実施。プレイルームにいるサボーターとの交流や、公民館に足を運んで親しみをもってもらおう面では一定の効果があつた。課題として、中地区の子どもの参加があつたため、小糸地区の子どものプレイルーム周知と、参加しやすい事業も今後視野に入りたい。</p>
<p>小糸地区青少年健全育成協議会</p>	<p>12回 21.5時間 1097人</p>	<p>・青少年健全育成標語の募集 ・選考・表彰 ・小糸少年相撲大会 ・教育講演会「『凡事徹底』平凡なことを非凡に勤める」 ・健全育成だより発行 等</p>	<p>児童意章の本旨に基づき、心身ともに健康な青少年の育成の為、地域ぐるみで文化環境の醸成や地域環境の浄化、諸条件の整備を進めることを目的とする。</p>	<p>小糸地区の少年たちが健全に育つことを願い地域の団体の協力と支援により相撲大会が行われた。相撲の取り組みが終了してから、地域の方が作ったちやんこ鍋が振る舞われた。健全育成標語は、539点が集まり優秀作品を、文化祭で表彰を行った。また、小糸中学校を会場として、日本を美しくする会相談役、鍵山秀三郎氏を講師に招いて「凡事徹底」のテーマで教育講演会が行われた。近年、健全育成協議会の設立趣旨が希薄となる傾向があり、今後役員会等で改めて各関係団体や機関等との連携や役割を確認することが必要。</p>

青少年支援事業	清和地区子どもキャンプ	21.5時間 143人	事前研修会(火の扱い方と服装について・注意事項・班活動等) キャンプ1泊2日 感想文集作成	【背景】学校の枠を越えた地域を題材にした体験活動を提供する役割が求められている。/自らの住む地域の魅力を伝えるために、意識的に自然に目を向ける機会を設ける必要。/子どもが地域の大人との交流を深め、地域の中で知っていただくことが、今後の地域づくりに重要な。 【目的】自然の中で体験や活動を通して、異年齢集団づくりを進める。/自らの力で生き生きと遊ぶ力を養う。/仲間と協力することの大切さを体験から学ぶ。	・昨年度相談員の委嘱替があり、8名の相談員が入れ替わった。テント張り、火おこし、飯ごう炊爨の経験のない相談員も多かったことと、予定より時間がかかった。相談員向けの事前研修と、指示の流れ等打合せが必要だった。 ・キャンプ場一般利用者に声をかけ、交流をもてたことと、キャンプ場の一般利用者が多かった。 ・海水浴での安全確保、適度な休憩、水分補給は良かった。一般客もいるので海水浴場での行事内容は工夫が必要。 ・感想文集の発行が遅くなってしまった。
たごづくり教室	1回 3時間 39人	和紙(障子紙)と竹ひごを用いた和風づくり	【目的】自分の力で物を作る喜びを体験し、創造性を育てる。地域住民の協力で開催することで、子どもと地域のつながりを深める。地域文化の子どもへの伝承。	・今年度は、青少年相談員と公民館職員で実施した。 ・見本を見ながら、作り方の手順を示したホワイトボードやチラシを使ってたごづくりを行った。相談員5名と保護者の協力により実施した。参加者1〜2人に対して大人が1人対応でき、スムーズに作る事ができた。 ・当日の飛び込み参加が目立った。今回は対応できたが、他の主催事業についても事前に材料を用意する必要があるものについては、「事前申込制」についての徹底が必要である。	
新春ちびっこ大会	1回 3.5時間 150人	カルタ大会・たごあげ大会・竹馬・竹ぼっくり・ごままわし・羽根つき・もちつき大会(おもち・とん汁)	子ども達が、昔から伝わるお正月の遊びの遊びの楽しさを味わい、仲間との輪を広げる場とする。	・今年度は新たに大判カルタを実施した。新しい催しをすることに参加を促していききたい。 ・今年度は清和中、秋元小、三島小、青葉高と社会福祉協議会の福祉教育の一環として、青葉高生4人と先生が運営補助として参加。本事業は、地域諸団体の協力を得て行われるもので、公民館事業の枠を超えて「地域の正月行事」として定着している。大規模な参加者の増は見られない状況がここ数年続いているが、内容の変更を検討しつつ継続して実施していきたい。	
清和地区成人を祝う集い	5回 11時間 120人	実行委員会(当日の流れについて、シナリオの読み合わせ・会場レイアウトの横断等) 集い当日運営	人生の節目を迎える20歳の青年の門出をともに祝い励ます行事を通じて、青年が大人になったたごの交流を深めることのできる機会、ならびに地域の人々との交流を深める機会を提供し、もって青年教育の推進、地域の活性化を図る。	【成果】・今年度は新成人28名中、9名の実行委員が集まった。9名が中心となって、新成人への連絡や企画運営に主体的に関わる事ができた。・例年、清和中卒業生でない新成人は、集い全体の雰囲気にも馴染めず、なかなか清和地区の成人を祝い集いに参加することができなかつた。今年度もこの傾向が見受けられたが、今年は欠席者からメッセージを予めもららい、当日はそれを代読することとで、清和地区の新成人を地区の方に紹介する機会を設けた。【反省課題等】・集いの内容に関して、職員側からの提案が多くなったので、来年度は新成人から多くのアイデアや意見が出るように、工夫を試みたい。	

<p>青少年支援事業</p>	<p>清和こどもプロジェクト</p>	<p>12回 48時間 121人</p>	<p>・夏季事業「おぼけ屋敷作り」 ・秋季事業「文化祭で模擬店参加」 ・三島地区を会場にウオーケラリー実施、ほか</p>	<p>【背景】地区人口における中・高校生～30代の割合は、割未済であり、「若者」が少くない地域である。高校・大学の進学、就職を機に地域を離れる人も多く、若者の減少が地区人口減少の一因となっている。 【目的】子どもとの触れ合いがきっかけとなり、公民館や地域とつながりを持つよう、若者が公民館に集まる機会や場を作る。 ・地域に関心／愛着を持つ青年が増えるよう、地域を基盤とした若者集団を形成し活動の輪を広げる。</p>	<p>【成果】・これまで、夏期～秋期にかけて事業を実施していたが、今年度は夏期・秋期・冬期のそれぞれで事業を実施し、事業の活性化を図った。 ・昨年度から始めた「文化祭模擬店参加」は、文化祭の来館者に少しずつ認識が広がっているようであり、好評であった。運営も主体的に行われ、自分達でPR用ののぼり旗を作成する等の工夫を行うことができた。 【反省課題等】・今年度、「地域に関心／愛着を持つ青年が増えるよう、地域を基盤とした若者集団を形成し、活動の輪を広げる。」ことを目的に本事業を進めてきた。冬期は、三島地区の地元を知る事業を実施した。本事業を通して地域への関心が高められるよう、発展させていきたい。</p>
<p>生活活性化支援事業</p>	<p>子育て支援事業 清和子育て教室</p>	<p>16回 45時間 441人</p>	<p>・レクレーション ・移動学習 ・子育て推進員を交え子育てに関する座談会 ・講演会「お互いを認め合い、支え合う子育て」ほか</p>	<p>【背景】少子化の進行、また、就職、結婚・出産などに伴い、清和地区から離れて行く人が多い。その中でも、清和に定住し子どもを育てる親たちが、より充実した子育てを行えるよう、公民館には、学習機会としての子育ての場、仲間作りの場としての子育てが求められるというこの清和地区で、充実した子育てが求められるという安心感や充足感が、定住人口の増加や、地域の活性化につながる。【目的】子育てを促している仲間が集い、子どもへの心身の発達や食育について学習する。子育ての悩みや不安を話し合える仲間づくりを行う。</p>	<p>【成果】・小糸地区で実施している「おしやべりデイナータイム」を清和地区でも実施したいという声が昨年度から挙がり、今年度初めて実施。自分達で企画や実施をすることで、清和地区でも実施が可能であるという認識を持つことができた。 ・プログラム内容のネーミングや参加者の固定化が課題であったが、年度末に小糸公民館幼児家庭教育級と合同実施の機会を設けたことで、新しい視点を取り入れることができた。 【課題】・小糸地区と合同で実施した際に得られた新しい視点を考え、学級の運営方法などを「清和子育て教室」に取り入れるための検討が必要。</p>
<p>子育て支援事業 「親子教室」</p>	<p>ドッチビー 移動学習 親子教室・子育て教室合同 企画夕涼み会 クリスマス交流会 科学実験シリーズ～30倍の世界、ほか</p>	<p>9回 33時間 333人</p>	<p>【背景】学校以外での他者との「遊び」「体験活動」が少ないと推測されること。共働きの家庭も多く、親性があがる。【目的】親と子どもが、共に活動に取り組み、時間や体験を共有すること。親子でのふれあいを深めながら、親子での育ちあいを図る。 ・子どもは、学校生活以外の体験の中から協力や思いやりを学び、様々な事柄へ対する興味を高め、接することの少ない他校の子どもや地域の人々などとの交流を深める。 ・親の事業に対する主体的な関わりや、家族間での交流を促し、地域における子育て中の親たちの交流を図る。</p>	<p>・準備会を設け、学級生と年間スケジュールを検討した。参加した学級生は、積極的な意見交換ができたが、参加者が少なかったため、より多くの準備会への参加を促したい。 ・地区内小中学校の年間スケジュールを随時確認し、行事が重ならないよう注意する必要がある。 ・学級生は昨年と比較して増加したが、小学校を通して「親子教室」を学級生に配布したが、手元に届いていないことが多い。 ・内容は、各回とも参加者には好評だったが、後半になるにつれて参加者が減ってきたので、運営について検討したい。 ・参加する子どもは、年齢層に幅があり、活動についてどの年代についても活動できる運営を考慮できるか、課題も多い。</p>	
<p>お飾りをつくる</p>	<p>お飾り作り</p>	<p>1回 2時間 20人</p>	<p>【背景】清和地区では、古来より自分の家で作っていたが、世代交替が進み作り方がわからなくなっている。 【目的】生活文化の伝承を図り、併せて世代間交流の場を提供する。真心のこもった手作りの良さと、作る楽しさを地域のお年寄りの協力のもと実施し、地域住民相互のふれあいを図る。</p>	<p>・地域のお年寄りの協力者により、お正月のお飾りの手作りの良さと楽しさを実感出来たことが良かった。講師から、お飾りについての地域ならではの由来や名称についての説明があり大変勉強になった。 ・例年、リピーターが多かったが、今年初めからの若い参加者もいて、地域住民相互のふれあいが深まった。継続して続けて貰いたいとの要望が多くあった。課題としては、協力者も高齢化し、講師の育成が必要である。</p>	

生活活性化支援事業	女性教室	1回 3時間 11人	ガトーンヨコラ、いちごのババロア、米粉のロールケーキ	【目的】女性の学び、活動の場として実施する。また、女性同士、世代間の交流を深めながら、視野を広げることのできる機会を提供する。	【成果】子育て中の若い母親から60歳以上まで幅広い参加者が集まり、普段接することのない人が交流を深めることができた。また、「おかし作り」を題材にしたことで、公民館活動に参加する敷居を低くするという目的がやや達成できた。 【課題】年代層は幅広くあったが、参加人数が少なかった。周知方法を検討したい。また、土日は自治会等の行事や子どもがいろいろで参加しにくいといったことも聞いたので、より参加しやすい環境について検討が必要。
清和高齢者学級	清和高齢者学級	10回 31時間 309人	高齢者の健康促進講座、移動学習、健康づくり(スポーツ実技)、講義「介護保険や介護施設入門」、人権講座ほか	身近な生活課題や社会問題について学び、知識の向上を図る。 高齢者の交流親睦を図り、健康や生きがいのある充実した生活を送ることを目指した場を提供する。	・高齢者に関心のある健康や生きがいを企画したことにより、学習意欲や交流が深まった。 ・運営委員会を開き学習内容を検討したが、内容により参加人数の増減が生じた。健康運動などについては好評だった。 ・開級式での学級生による歌や踊りの発表は好評で交流親睦が深まった。 ・地区老人クラブを通じての周知や自治会回覧を行ったが参加者数が固定しており、新規人数が増えるように検討したい。また、学級生自らが進んで企画運営に携わるように努めたい。
地域交流促進支援事業	地域伝統文化講座	3回 12時間 23人	・千葉県文書館「ミニ展示 むかしの結婚」見学 ・国立歴史民俗博物館 清和地区の結婚式について聞き取り ・以上を元に第43回清和地区文化祭で企画展「清和地区の結婚式」を実施	【背景】清和では人口減少や高齢化により、これまで受け継がれていた地域文化(風習や伝統芸能)が衰退している。この課題に対して、本事業では、平成21年度以降、聞き取り調査を行い、地域住民とともに地域文化の記録を行ってきた。 【目的】人口減少や高齢化により、失われつつある清和地区の伝統を記録・保存する。また、保存活動を通じて、地域住民が地区の伝統芸能について再認識する機会を設ける。 【備考】聞き取った内容を集めた情報を元に、清和地区文化祭特別展「清和地区の結婚式」を実施。	【成果】今年度テーマを「清和地区の結婚式」に絞り、展示見学等をプログラムに取り込みながら、情報収集を行った。最終的には、集められた情報を文化祭企画展で活用することで、地域文化の探集・記録を行うことができた。 【課題】本事業を通じ、地域の伝統文化を採集・記録することは少なからず達成。しかし、地域の伝統文化が失われている危機感で、地域住民・事業参加者自身が強く実感している訳ではないので、参加者の主体性に欠ける点がある。①地域住民・参加者などにより地域課題の共有化を図るか ②事業の必要性、事業のあり方は適当かの2点について見直しが必要。
利用者研修会・懇談会	利用者研修会 会・懇談会	3回 12時間 75人	・利用者交流会 ・利用者研修、意見交換会 ・館内外美化活動	【目的】公民館利用相互の交流と連携を深める。また教育機関として公民館の理念や趣旨の理解を深め、公民館活動の発展を図る	【成果】・利用者交流会で訪れた三井美術館では、日頃目にする機会の少ない美術品に触れ、参加者からは好評であった。 ・研修会を兼ねた懇談会では公民館の利用方法について確認することができた。 ・40周年記念事業終了後から、公民館利用者相互の交流を図ることを目的に、館内の美化活動を行ってはという提案が公運委員会や利用者懇談会で出され、今年度から館内美化活動を本格的に始めることとなった。参加した利用者から、「あまり話したことがない人」と会話することができたことなどといった感想が挙がったことなどから、交流が図られた様子が伺えた。
清和青少年健全育成連絡協議会	清和青少年健全育成連絡協議会	10回 31時間 423人	・運営委員会 ・標語募集 ・多世代グランドゴルフ交流会 ・新春ちびっこ大会事業への協力支援 ・防犯パトロール、ほか	【目的】次世代を担う青少年の健全育成を図るため、清和地区での市民各層の地域ぐるみの理解と、活動があらわな認識にたたって、総合的かつ統合的な育成の活動を推進すること。	・地域ぐるみで青少年を、健全に育てる意識高揚を図り、明日を担う青少年の郷土愛を育て、共に健やかに成長しようとする心構えを培うために標語を募集した。秋元・三島小学校99名・清和中学校43名の児童・生徒より応募があり、各学年別に優秀作品を選定し、各学校や公民館に掲示した。多世代グランドゴルフは、競技を楽しむとともに人間関係を深め、地域の老人クラブの方々との交流を通して、お年寄りに対する尊敬の念や親愛の情を深めた。

<p>サークル・団体への協力・支援</p>		<p>・青少年相談員活動支援 ・秋元小学校通学合宿支援委員会参加 ・清和無形民俗文化財保存会支援 ・コスモスフェスティバルへ参加 ほか</p>	<p>【目的】・公民館利用サークルや、保育園・小学校、青少年相談員、老人クラブ、清和の文化会、婦人会、無形民俗文化財保存会など、地域の各種団体との連携を進める。地域文化の担い手であるサークルの育成援助を行い有効的な公民館利用につなげる。</p>	<p>・各団体との連絡を密にし、地域の団体の活動の援助を行うとともに、公民館の活動への支援もいただいている。 ・地域内の各団体の活動がそれぞれ個々の活動になっており、地域全体としての連携がうまく図れていない。交流・連携・情報集積と発信など公民館の機能をさらに強める必要がある。</p>
<p>地域団体・関連機関との連携 NPOいきいき清和主催「めざせ!!! 田んぼのマイスター」</p>	<p>10回 27.5時間 338人</p>	<p>・田植え～稲刈り体験 ・案山子作りコンテスト ・そらめん流し ・収穫祭 ほか</p>	<p>【目的】 地域の各種行事、イベントを奨励しながら連携を深め、地域を見つめ励ましあい、発展させ清和の活性化を図る。 【備考】 平成28年度は、千葉県立中央博物館、「市宿おばあちゃん畑」と連携し、NPOいきいき清和主催による事業の支援を行う。</p>	<p>【成果】・地域団体の主催事業に対して、①周知 ②企画 ③当日の運営 ④事後のPRといたった4面から支援を行うことができた。 ・NPOいきいき清和設立以来、こうした事業は初の試みであったが、参加者も集まり内容も好評であった。 【反省課題】・当初、清和地区住民と地区外住民の交流を目的に、対象を在住・在勤不問としたが、清和地区からの参加者が少なかった。来年度は、公民館事業（親子教室・子育て教室）の中に組み入れることで、清和地区住民の参加を増やしたい。</p>
<p>展示活動</p>		<p>主催事業／館報せいわ／「地域の行事カレンダー」／サークル案内／きみびよんPR展示／サークル作品展 等</p>	<p>サークル、団体の作品や主催事業、館報の写真等を常時展示して、ロビーを住民の「ふれあいプラザ」として位置づける。</p>	<p>・例年行っていた主催事業、館報等の掲示は今年度も継続して行った。また、広報きみびよん等で清和地区に関連のある記事が掲載された際も、地区内周知を図るため同記事について館内掲示を行った。 ・サークル関連の掲示物が少ない。定期利用サークルは、長年会員数の減少が課題となっている。この課題解決のために、掲示物を利用した周知・募集活動について各サークルに働きかけていきたい。 ・秋元小学校の児童が授業で作った作品も掲示したことによって、多世代交流の理解・支援につながったと思う。</p>

小櫃公民館 26年度事業報告(概要)

分類	事業名称	回数・延人数等	主な内容・題材等	目的・背景等	成果・課題等
地域交流促進支援事業	利用者懇談会	2回 2.5時間 130人	講義 「公民館の利用について、公民館の上手な使い方」 「サークル体験まつりについて、避難訓練・消火訓練」	団体活動の発展と利用者・団体・職員相互の学習・交流・連携を進める。 長期利用申請等についての説明や公民館利用上の注意事項等の周知を図り利用者にとって利用しやすい環境を整える。	公民館施設の利用方法について改めて説明するとともに、今回はサークル利用以外での公民館の利用方法（主に公民館事業）についての紹介をおこなった。事業参加者も年々減少傾向にあるため、今後もチラシ配布以外でのPR方法を考えていきたい。また、毎回の利用方法の説明が主となっているので、今後は事業名のおおりに利用者同士のつながりがもてるような内容を検討していく。
	地域香つむぐ 出前講座（人権講座）	1回 2時間 6人	人権講演「大人が知らないお スマホの世界～あなたのお 子さんは大丈夫？～」講 師：弘中 邦典 氏	地域に Outreach、きめ細やかな学習機会会の提供を図るとともに、地域との連携を深める。 人権についての正しい知識と理解をし、豊かな人間性を育む機会とする。	子どもがインターネットを使う上での諸問題について、近隣の学校の状況や小櫃の状況を講師と参加者で情報交換ができた。内容も大変分かりやすく勝ったが、参加者が大減少なく、自治会や子ども会等を通して更に参加者を募る必要があった。来年度は事前の申込みなども含めて、参加しやすい事業のあり方を検討する必要がある。 参加者が少なかったため、講義の詳しい内容を館報およびよりでも紹介した。
	団体支援事業 （小櫃公民館 利用者連絡協 議会・小櫃の 元気な子どもを 育てる会）	6回 14時間 50分 190人	小櫃公民館利用者連絡 協議会（総会）/環境美化活 動：公民館周辺の草取りや 花壇の手入れ等の参加/ 移動教室） ・小櫃の元気な子どもを育 てる会（役員会/総会）	小櫃地域内団体の支援・育成に係わる。「利用者連絡協議会」は相談業務、「小櫃の元気な子どもを育てる会」は公民館長が副会長、副館長が部長、副館長が事務局長として館長が部長、副館長が事務局長。広報誌「きずな」を編集し、年2回発行する。	小櫃公民館利用者連絡協議会：今年度の登録サークルは34団体で、活動の理解も浸透し公民館利用者との交流と研修を深めることができた。各サークルの内情は高齢化が進み会員も減少傾向にある。公民館もサークルの会員拡大に向けた取り組みに協力すると共に新サークルの育成に努力したい。 小櫃の元気な子どもを育てる会：役員会を定期的に開催し、課題や情報を共有。組織、運営方針を協議していく必要がある。
	絵はがき講座	1回 3時間 7人	絵はがきの書き方 等	絵はがきの製作を通し、表現・創作の楽しさを味わうとともに、芸術文化に親しみ、豊かな文化の発展に寄与する。また、小櫃公民館利用サークルの活動の発展を図る。	講座の中で、具体的な絵はがきの書き方だけでなく、絵手紙サークルの今までの活動や小櫃・上総地区での絵手紙の活動についても紹介してもらった。新しいサークルの新設や現在休止中の絵手紙サークルの活動再開にむけて、次年度以降も継続して取り組みたい。
	県立君津青葉 高校運搬事業 「草花教室」	3回 7時間30 分 51人	開講式 草花の種まきとポット上げ 作業、種の洗浄 等	小櫃地域にある専門的な教育施設である君津青葉高校との連携を深め、小櫃地域の文化向上と生活環境の活性化を図る。小櫃地域の環境美化活動として、草花の育成と花いっぱい運動につなぐ。 協力：君津青葉高校、小櫃の元気な子どもを育てる会 運搬部会	事業の広報・周知が足りないという前年度の反省を踏まえ、各地区へ実際に出向き広報を行ったところ、新たな参加者が増えた。また、事業の内容が作業に陥りがちなため、専門的な教育施設である君津青葉高校で行う事業という特性を活かし、草花育成の知識を解説してもらおう時間を増やしてもらった。 当事業を通じて、君津青葉高校との連携や学校等の各団体同士の連携を図っているが、更に参加者や参加団体のつながりが持てるよう工夫したい。

地域自治・文化振興支援事業	第40回小櫃地区文化祭	11回 28時間 20分 2884人	<ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会 ・実行委員会 ・部門会議 ・小櫃公民館だより「文化祭特集号」発行 ・特別部門会議 ・全体共同作業日 ・当日運営 	<p>豊かな地域文化の創造と活力ある地域社会づくりをめざして、各種団体と個人の文化活動、公民館事業の成果を発表し、交流を図る。小櫃公民館利用者連絡協議会を中心に、実行委員を募り、実行委員会を結成する。公民館が主催し、実行委員会が運営する。公民館利用者だけでなく小櫃地区全体の文化の祭典とすることを心がける。</p>	<p>小櫃公民館開館40周年記念事業と特別展「おびつ40年の歩み」記念誌で振り返る周年事業は文化祭期間だけでなく、その後3ヶ月間展示した。参加者（サークル）・入場者共に減少傾向にあり、対策を講じた必要がある。地区文化祭に対する理解と連携を更に深め、従前の参加者だけでなくこれ以外の積極的参加が得られる工夫を実行委員とともに検討したい。</p>
	館報「おびつだより」の編集・発行	4回	<p>内容(公民館主催事業/サークル紹介/地域役員紹介/公民館開館40周年について/新任の校長先生等の紹介)</p>	<p>地域における学習・活動・文化・くらし等を編集し、地域住民と公民館を結びパイプ役とする。地域の動き等も積極的に紙面に載せて、地域情報センター的役割を図る。</p>	<p>地域の方からの情報を元に現地に出現き取材を行い、地域の情報を発信することに努めた。また、取材やインタビューを通じて、各地域や各団体との交流が生まれ、更に情報を提供してもらった。取材や地域の方からの寄稿を元に紙面をつくっているが、編集は職員のみで行なっている。地域の広報紙として、地域の方に更に協力を得ながら、幅広く情報をもとめ、さまざまな視点での広報を行なっていくことが望ましい。</p>
	地域子ども教室	1回 2.5時間 5人	<ul style="list-style-type: none"> ・「夏のちよつとこわーいおはなし会」 ・紙芝居・おはなし会とミニ工作 	<p>学校の夏休み等を利用して、物の大切さを感じたり、手先の器用さを身につけたり、時には心を落ち着かせて学ぶ。また、地域の大人との交流を図り、子どもも健全な成長と仲間作りの場とする。</p> <p>夏季、冬季、春季の休みに分けて実施予定。</p>	<p>年長から4年生までの子どもが参加したが、講師には子どもから臨機応変に対応してもらったので、それぞれ集中できていた様子だった。</p> <p>公民館の施設の一部である分室を活かすためにも、今後も君津中央図書館と協力して事業を行いたい。参加者が昨年より著しく減少しているため、次年度以降は小櫃小学校学童クラブなどの関係団体を通じて広報を行なうなど工夫して取り組みたい。</p>
	子ども会等関係者会議	1回 1時間20分 35人	<p>小学校/中学校の事業計画/青少年相談員の事業計画/各子ども会/スポーツ少年団体等の行事紹介/公民館の事業計画、等</p>	<p>小櫃地区の青少年教育活動に携わる関係機関や子ども会等団体の代表者が一堂に会し、諸活動の情報交換と連携を深め、調整可能な行事等は極力調整し、より効果的な青少年健全育成に努める。</p>	<p>子どもに関係する団体と子ども会役員(各地区PTA役員)が一同に会したことで、情報交換だけでなく、子どもと地域の大人のかかわり方について考える良い機会となった。このような機会はほかにないので、今後も情報交換だけで終わらないように会議の内容について考えていきたい。</p>
	親子映画会	3回 7.5時間 58人	<ul style="list-style-type: none"> ・箕輪子ども会にて映画上映 ・小櫃小学学童クラブにて映画上映 ・戸三老人クラブにて映画上映 	<p>親子のふれあいと地域の連携を深める。優良映画に軸を据え、親子のふれあいを育てる機会とする。</p>	<p>箕輪子ども会からは、子ども会等関係者会議での広報をきっかけに依頼を受けた。日頃は、「親子映画会」として各地区の子ども会等を主な対象に事業を行っているが、幅広い種類や年齢層の地域団体の要請を受けることで地域との連携がより深まると考え、小櫃小学校学童クラブや戸三老人クラブから依頼を受け、DVDの上映を行った。今後も柔軟に対応していきたい、利用をひろげたい。</p>
	小櫃っ子アドベンチャー	5回 16時間 77人	<ul style="list-style-type: none"> ・君津青葉高校でどんなところ ・マドレーヌ作り挑戦 ・夏の星空ウォッチング ・移動学習 そなエリア ・小櫃を探検しちやおう ・フェルト工作、ほか 	<p>体験学習をおとして、自然環境や地域への理解を深める。</p>	<p>地域の方を講師に迎え、子ども達が小櫃地域への理解を深められるよう取り組んだ。保護者の関心も高く、事業に参加してくれる方が多かった。来年度は子どもたちが主体的に取り組めるよう、学年ごととの役割分担などの工夫が必要である。</p>

上総地域交流センター 26年度事業報告(概要)

分類	事業名称	回数・延人数等	主な内容・題材等	目的・背景等	成果・課題等
市民相互交流促進・生涯学習促進事業	まちなみ塾(事業)	5回 8時間 681人	・第8回打ち水・くるりの夕涼み ・第7回落語フェスティバル ・第11回久留里まちなみコンサート ・第9回部の難展 ・第10回久留里の名水で仕込んだ新酒を楽しむ会	久留里商店街振興組合に加盟している商店や地区内の団体・個人等の協力を得て、久留里の歴史と文化に根差した事業の企画をすすめ、それを具体化する取り組みを通して地域の活性化をめざす。	諸事業への参加を通して久留里の歴史と文化に触れると共に、久留里の良さを再発見する場となっている。
	花いっぱい運動の推進	2回 3.5時間 71人	・ペチユニア・サルビア・マリーゴールドの苗690本を植栽 ・パンジー・ソナリアの苗500本を植栽	通勤や観光等にJR久留里駅を利用する方や上総地域交流センターを利用する方々をあたたかく迎えようとして、夏・冬の二回、君津青葉高校生と上総ロータリークラブ・菜園とガーデニングを楽しむ教室生が共同し、上総地域交流センター花壇に花の植栽を行っている。	平成17年から上総公民館と君津青葉高校が始めた花いっぱい運動も9年が経過し、地域に定着しつつある。今後は街中の通りに花壇などをつくるなどして、花いっぱい運動を大きく広げてゆきたい。
	菜園とガーデニングを楽しむ教室	7回 23時間 71人	・小系在来・丹波の黒豆栽培 ・パンジー苗の栽培 ・デインブルアート ・布袋の彩色、ほか	花や野菜を苗から育てることを通じて栽培の方法・管理等を身に付けると共に、仲間との交流の輪を拡げ花いっぱい運動への参加をめざす	菜園やガーデニングを通して農作業や花の栽培方法について体得すると共に、育てることの楽しさを味わうことができた。
	城下町だよりの発行	12回	記事 ・絵と写真で綴る上総地域の今と昔』を刊行 ・街中散歩(旧県農業改良普及所上総支所の巻、路地裏を歩く、など連載) 『聞き書き 私の昭和史』講座開設、ほか	上総地域交流センター事業の参加者募集と合わせ、管内で開催される年中行事や諸活動の紹介などを通して、地域活性化の一環として月1回定期発行する。	上総地域交流センター事業や管内で開催される諸行事・活動について「城下町だよりの発行を通して徐々に理解が深まり、参加者も増えつつある。
	聞き書き 私人の昭和史講座	9回 20時間 40人	講話「戦後の農業振興策を語る」「わが国 最古の大学 森 東京大学千葉演習林で培ったこと」「子どもたちと歩んだ学びの場から一戦前・戦中・戦後を語る」ほか ・激動の昭和をひもとくー64年の歩みー	小櫃・上総地区在住の60代・70代・80代・90代の方々にスポットをあて、昭和に生まれ、昭和の時代を支え、郷土の発展をめざすと共に、昭和を駆け抜けた世代の体験を綴る講座を開設する。また記録化する。	様々な職種の方々を講師に招き昭和の時代を浮き彫りにすることをめざした。学習記録としてまとめることが出来なかった。

上総公民館 26年度事業報告(概要)

分類	事業名称	回数・延人数等	主な内容・題材等	目的・背景等	成果・課題等
公運審関係費	小櫃・上総公民館運営審議会	4回(他、公運審連会議等参加)8時間29名	報告(事業計画および報告についてほか)協議(家庭教育支援の充実について)	館長の發問機関として、公民館事業の企画・実施、施設の整備等について総合的に調査・審議すると共に住民の意見を反映するために設置している。	26年度は、小櫃・上総地区公民館運営審議会として、8名の委員(中途辞任により委員1名欠員)で公民館運営や地域の活力と自治能力の向上を目指した教育施設としての役割を審議してきた。事業報告を通じて委員から意見を頂き、住民の声を反映した主権事業の実施に資している。また、平成25年度から協議してきた「家庭教育支援の充実について」を審議会としてまとめるとともに、積極的に参加、研鑽を積んだ。
地域交流促進支援事業	女性学級	7回8時間90名	開級式講演「活かすセミナー」(計2回)移動学習古紙を使ったカゴ作り終活セミナー・ディスカッション 閉級式	・日々の暮らしや健康について考え仲間と学ぶこととをテーマとし、地域の中で人と人との出会い、健康な人生を送るために学習を通じて交流を深める機会とする。 26年度は年間テーマを「楽しみ、活かし、整える」として学びを進める。25年度未班長会議を行い内容検討。	これまでと比較して、勉強にはななかったが重苦しい内容であったという声が多く、企画段階で前年度の参加者の一部を元にした案とした欠員が顕著に表れた。開始当初からこの点を危惧していたため、最終回にアンケートを集めての結果であったが、逆に回答によって次年度のテーマを推測ではなく、確実に決めることができた。また、参加者の顔ぶれが増えなかったことと、指導されたが、一方で、運営体制の変更によって参加しやすくなった、という声もあり、賛否両論の結果であった。次年度は必ず参加者の増加を図りたい。
地域自治・文化振興支援事業	館報「上総公民館だより」発行	4回	各号(第152~154号・文化祭特集号)の発行 記事:平成26年度事業計画、市政協力員紹介、東京大学千葉演習林120周年記念出版本紹介、上総分署新築・開署、上総地区青年相談員連絡協議会活動紹介ほか	公民館及び分館事業や活動の紹介等を通して、豊かな地域文化の創造を目指す情報誌として発行する。	公民館からのお知らせだけでなく、地域の情報がわかる紙面を目指し、取材を行った。また、地域の様々な人に登場していただき、タイムリーな情報を組み込み込めるよう工夫した。
地域自治・文化振興支援事業	「久留里だより」発行	2回	各号(第6~7号)の発行	往時の歴史と文化を今に色濃く残す久留里地区の良さを再発見することとをめぐり取り組みなどを『久留里だより』で取り上げると共に、住民相互の交流と親睦の輪を拡げ地域活性化をはかる契機とする。	久留里地区内の諸活動について『久留里だより』で紹介することを通して、住民相互の交流と親睦の輪を拡げることができた。
地域自治・文化振興支援事業	第44回 上総地区文化祭	7回21時間9663人	企画委員会 実行委員会 文化祭(作品展示・小中学校音楽発表会・うたごえ喫茶・実演体験コーナー・ちびっこ工作室・ようかいスタンプラリー・千葉のものもの展・模範店・特別展「激動する昭和をひもとく」等)	住民の学習・文化・スポーツ活動の発表・交流を通して、暮らしと地域に根ざした文化活動の発展と活力ある地域社会をめざす。	44年間の歴史が積み上げた文化の祭典として、上総地域に住む人々の文化の意識の高まりを感じる文化祭であった。昨年度に引き続き、上総公民館が、県立中央博物館主体の「博物館・図書館・公民館連携事業実行委員会」の協力館となっていることから、「ものけ(妖怪)」を取り入れた企画を行った。企画委員会の組織しての特別展示(激動する昭和をひもとく)を実施。当時の生活の有様や地域の変化について互いに確認する良い機会となった。課題として、地域で文化活動をしていける方や機関の参加、広がりどと交流を図っていただきたい。

地域自治	団体活動育成 支援活動 (上総公民館協 利用者連絡協 議会)	6回 17.5時間 85人	・役員会、総会等 ・移動研修 ・文化祭参加	公民館事業や活動を通じて、学習と地域づくりの活 動を支援する。公民館利用者が公民館の役割を認識 し、利用しやすい公民館づくりと団体活動の発展を考 えていく機会とする。	活動面では、視察研修交流会を1回行ったが、サークル相互の コミュニケーションを深めることができた。 今後も、会員にとっても有効で充実した活動になるように支援して 行きたい。
青少年支援事業	公民館Deチャ レンジ	4回 16.5時間 135名	・ちよつとこわいおはなし会 & 簡単工作 ・ふしぎなおはなしの映画 会 ・紙粘土等を用いた 自由工作 ・紙皿でお面作り ・アナログゲームを楽しむ (春休み)	子ども健やかな成長と発達をめざすと共に、自然 のすばらしさを実感し、自然の営みに限りない探究心 を育てる。また、各サークル・公民館利用者・地域の 方などに協力頂く中で、地域の大人それぞれがこれま でとは違った地域との関わり方を考えきつかけがちな る事も期待する。少子高齢化・人口の著しい減少が進 む中で、地域の活性化を目指し、親や地域住民として 他地区の児童とも関わる中で相互に考えを深めあひ、 ふれあう機会を提供することを主目的とする。	・サークルの方々に声をかけ、講座を手伝ってもらうなど、大人 と子どもの繋がりを試みた。内容によっては保護者の参加が見ら れた。 ・夏休みの企画については博図公(博物館・図書館・公民館)連携事 業の一環として、ものけや妖怪を題材とした内容を加味した。 ・学童保育にも声をかけ、参加を促した。チラシの配布時期など を検討し、より多くの子どもたちにも周知したい。 ・春休みにアナログゲームを楽しむイベントを地域の方々の協力で 行った。
青少年支援事業	青少年支援事 業	5回 35時間 158人	友遊ボール大会 君津ふるさとかるた 子どもキャンプ 書道大会	屋外での活動を通して自然の素晴らしさや大切さを 実感するとともに、友情の輪を広げる。	・青少年相談員連絡協議会と共催。18期相談員は2年目で、昨年 度よりもスムーズに役割分担を行うことができてきた。 ・少年スポーツやPTAなどの人脈を活用して地区の子どもたちにも参 加を促すことに努めた。キャンプの参加数は少ないが、子どももた ちには共通の体験をした中で、まわりが見られるようになっ た。友遊ボール大会は、保護者と一緒に参加が見られた。経験者 との差ができてきているという課題が残っている。 ・青少年教育のあり方、青少年健全育成関係団体への育成支援の あり方を見直す必要がある。特に会議の開催方法や企画の負担な ど運営を工夫することもある。
平成27年成人 を祝う集い	対象者概要説明(亀山・久 留里地区) 実行委員会(松丘地区 計 1回、亀山地区 計4回、久 留里地区 計3回) 事前準備・運営確認(亀山・ 松丘・久留里地区) 成人を祝う集い本番	17回 28時間 30分 292名		成人としての自覚を持ち、地域との交流・親睦を図 るため、久留里・松丘・亀山の3地区で開催する。七 のため、各地区で実行委員会を組織し、成人者が主体 的に運営に当たる。	進学や就労で普段地域を離れ、実行委員として新成人がなか か集まらないという状況が続く。会場準備は、新成人自身が当事 者として行い、当日は一人ひとりが「20歳を迎えるの抱負や夢な どを語る」プログラムを組み込み保護者や地域の方に感謝の言葉 を述べる場面も見られた。 今後、新成人数が減少する中で、実行委員会や3地区同時開催 について対象者や地域住民と話し合い検討をしていく必要がある 。また、人数が少くないせいか、地域・保護者との親近感はある が、「実行委員会」で作る集いである事、次の年代についでい く必要がある。
生活活性化支援事業	さわやか学級 (高齢者学級)	10回 27時間 334名	・移動学習 ・健康な身体づくり ・高齢者にかかわる人権 ・地域を知ろう ・小櫃ほほえみ学級・上総 さわやか学級交流事業学 級生芸能発表 ・救命普及講習、ほか	高齢者が、健康で生きがいのある日々を過ごすため に、ともに学びあひ交流を深めあう場とする。	・プログラムは前年度役員と協議を希望しに沿った学習内容を心 がけた。 ・学級を通して、生き生きとした高齢期を過ごすために主体 的に参画できるような運営を行った。 ・役員会を設けるべく総意の意見をとり入れた。 ・アンケート結果では、来年も是非参加したいという意見が多く 聞かれた。また、移動学習や健康学習などの人気が高く、来年も 取り入れたい。

<p>分館事業</p> <p>松丘分館だより発行</p>	<p>3回</p>	<p>各号(第30~32号)の発行 記事:松丘分館事業推進委員会、自治会長の紹介、北野神社について、ほか</p>	<p>地域における学習・文化・体育活動及び暮らしに関する情報をまとめ編集し地域住民と公民館を結びつなげる役割として発行する。 編集は松丘分館事業推進委員会で行うこととし、発行前に企画会議を行う。</p>	<p>昨年度の「地域再発見」をキーワードに編集に取り組み、という方針に基づいて発行し、地域の行事やニュースを取り上げることができた。 ただ、まだ企画や完成したものへの意見交換程度の話し合いであつたため、今後はより編集委員体制に近づけるよう努力したい。今後、有効な手段を取り入れながら地域に寄り添った新聞を目指していきたい。</p>
<p>趣味教養講座</p>	<p>5回 20時間 40名</p>	<p>閉級式 料理作り(タレから作る冷やし中華、豆腐の味噌汁と納豆、冷拌豆腐 ほか) 閉級式</p>	<p>地域の活性化を目指し、地域住民が相互に考えを深めあい、ふれあう機会を提供することを主目的とする。 平成26年度は、「男の料理教室」を行う。松丘分館事業推進委員会において、男性の参加を増やすべく様々な分野を検討したが、「手軽に始められて、男性の参加を促せるものを」という理由から料理を取り上げることに決定した。簡単なものでよいから自分で調理をすれば、他人に頼ることなく自身の嗜好に合った品を作って食べる充実感や楽しさを味わえる内容にする。</p>	<p>各回の出席が過半数を超え、受講者もまったくの素人ではなく、レベルのさならなる向上を目指す意欲の高い方が多く、当初の予想を大幅に上回る盛況振りであつた。 参加者の意欲は高かつたその一方で、サークル化に至っておらず、継続的な取組みが望まれる。</p>
<p>松丘分館事業(その他)</p>	<p>6回 20時間 30分 60名</p>	<p>松丘分館事業推進委員会(計4回:松丘分館だよりの編集、発行について ほか)お飾りづくり講習会 移動研修</p>	<p>地域住民相互の学習活動を通して地域の文化の継承、地域住民相互のふれあい、健康増進をはかる。分館事業等については、松丘分館事業推進委員会で検討をしながら実施する。特に、松丘分館だよりは、松丘分館事業推進委員会で編集として行っている。</p>	<p>松丘分館事業推進委員会を年4回開催し、分館だよりについて意見を申し出し、編集に取り組んだ。事業についても話し合い、ふれあいまつりでの企画や各事業への参考意見にもなった。ただ、分館だよりの編集については、昨年同様企画や完成したもののへの意見交換程度にとどまり、今後より編集委員体制に近づけるよう努力したい。</p>
<p>“山”と“歩く”を 楽しむ教室(松丘・亀山分館 共催事業)</p>	<p>3回 21時間 30分 50名</p>	<p>講義「久留里地区を歩く」「松丘地区を歩く」「亀山地区を歩く」 閉級式</p>	<p>平成19年度から地域再発見と健康増進を目的に実施してきた紅葉ハイキング。事業に広がりを持たせるため、平成24年度は、1回のみの実施ではなく3回の連続講座として実施した。 25年度はさらに回数を増やして5回連続講座として実施したが、参加者から回数が多いという意見があつたことから、3回に戻した。今年度は、地図を見る、ということを中心に取り組みむこととした。</p>	<p>昨年度の話し合いや反省点を生かして、講座内容を組み立てた。山歩きの基本を学びながら、実際に学級生が先導を担うなど、集団で歩くことについての意識を持ってもらうことができた。参加者には、健康への意識の他に、地域を知りたい・歩きたい、という声も多く、内容について(行き先等)は好評だった。今後、何を目標として教室を行っていくのか参加者等と話し合いを重ねていきたい。</p>

<p>分館事業</p> <p>第11回亀山ふるさとまつり</p> <p>8回 32時間 1644名</p>	<p>事前打合せ会議(計2回) 役員会(計3回) 実行委員会 共同作業 ふるさとまつり本番(2日間)</p>	<p>亀山コミュニティセンターを利用してのサークル・団体等が活動成果を発表するとともに、地区内の教育機関及び自治会等の発表活動を通して住民相互の親睦・交流の輪を広げ、新たな地域づくりの契機とする。</p>	<p>昨年度、台風で中止となった企画を引き継ぎ、落語・カラオケ等、たくさんの方が集まる企画について実施検討。亀山中学校の全校生徒が30名を切り文化祭の参観者が少ないこと、選挙で大会議室が使用できないことなどから、合同実施に向けて検討。会場は、舞台発表・模擬店・子ども向けイベントは中学校、展示はコミュニティセンターで実施。実施後、双方観客が増え、舞台を運ぶ作業がない、といった利点から、次年度以降も合同実施を希望する声が多かった。次年度中学校体育館の耐震工事があり、早め</p>
<p>亀山分館だより発行</p> <p>3回</p>	<p>各号(第133~135号)の発行 記事:三石のおまつり、亀山ふるさとまつり、亀山中学校文化祭と合同実施、ほっとかめやま、亀山ふるさとまつり、ほか</p>	<p>分館事業・活動及び地域の文化・スポーツ並びに地域活性化等の紹介等を通して豊かな地域文化の創造をはかる情報誌として発行する。</p>	<p>編集委員会として公民館運営審議会委員を含め3名にご協力いただいている。地域の様々な行事や人の情報を取り入れる事ができ、紙面も充実してきた。地域の様々な世代の方の目にとまり、大切にしたい。今後は今度も工夫をしていく。</p>
<p>趣味教養講座</p> <p>5回 15時間 156名</p>	<p>開級式 実習(計5回:コースター・ポーチ・オリジナルバッグの作製) 閉級式</p>	<p>今年度は、身近な布や端切れのリサイクルを考える一環として、手芸を題材とすることが希望され、布小物作りを中心とした講座を計画した。少子高齢化・人口の著しい減少の進む中で、地域の活性化と人材の掘り起こしを行うことを目指し、地域住民が相互に人間関係を築くことを目指す。併せて、仲間と楽しむことによる健康維持に主眼を置くものを目指す。講座終了後はサークル化を図る。</p>	<p>4月に開催した分館事業推進委員会で出た意見をもとに、講座「ぬってつないで楽しむ!布小物作り講座」を実施した。多くの参加を得ることができた。経験者は何人かいたが、全く初めての製作するという参加者が多かった。また、学級生同士が教えあうような場面も見られた。地域の方に講師を依頼できたことも成果の一つである。学級終了後、月に2回、サークルとして活動を行っている。</p>
<p>亀山分館事業(その他)</p> <p>4回 17時間 50名</p>	<p>亀山分館事業推進委員会 (計2回) お飾りづくり講習会 移動研修</p>	<p>地域住民相互の学習活動を通して地域の文化の継承、地域住民相互のふれあい、健康増進をはかる。</p>	<p>・お飾り作り講習会は、分館事業推進委員会の希望を参考に、継続開催した。 ・家庭教育学級のサテライト版開催(家庭教育学級の報告書を参照)。これは、亀山分館事業推進委員会でも開催の要望があつて実現。 ・利用者移動研修は、サークル会員に呼びかけることを主軸としながらも、公民館活動に参加していない方にも広く呼びかけることとした。実施については、各サークル間の活動を知ったり、公民館・分館について知るなど、ある程度の効果は出ていると思われる。見学先の決定をなるべく早く早めにし周知したい。</p>

平成26年度 文化振興課事業実績報告

(1) 芸術文化事業

No.	事業名	目的(主たる内容)	開催時期等	備考(人数)
1	きみつ夢未来ミュージックフェスタ実施事業	君津市出身の指揮者坂本和彦氏を音楽監督に迎え、期間限定の合唱団を結成し、市内出身の若手演奏家や子どもたちを交え、きみつ夢未来コンサートを開催した。	練習日 毎週水曜日 開催日 1月18日	君津市民文化ホール 出演者数 235人 来場者数 779人
2	子ども文化育成事業	市内外で活動している、きみつ少年少女合唱団、かずさジュニアオーケストラ(KJO)を支援し、子ども芸術文化の育成を図った。	練習日 きみつ少年少女合唱団:毎週土曜日 KJO:毎週日曜日	団員数 63人 32人
3	芸術文化振興事業	君津市文化協会の各部門の事業の推進と充実を図り、市民文化活動の普及と活性化を図った。	通年	13部門 会員 1,011人
4	君津市民合唱団育成事業	市民合唱団の団体運営及び活動の充実を促進し、演奏会等の開催を支援した。	練習日 毎週金曜日	団員数 31人
5	スクールコンサート助成事業	君津音楽協会主催のスクールコンサート事業を支援し、学校教育における音楽文化の充実を図った。	6月:大和田・坂田・周南・小糸各小学校	市内の小学校4校
6	君津市市民文化振興基金	寄附金等を基金として積み立て、基金の運用から生じる収益を活用し、市民文化の振興を図った。	通年	
7	君津市民文化ホール管理運営委託	市民文化ホールを円滑に運営するため、管理運営を指定管理者に委託し、地域文化の振興及び市民福祉の充実を図った。	指定期間 平成26年4月1日 ～ 平成29年3月31日	
8	君津市民文化ホール自主事業補助金	市民文化ホールの自主事業活動を推進し、さまざまなジャンルの芸術文化を低料金で鑑賞することができるよう自主事業の事業費を助成し、市民文化の振興を図った。	年20事業開催	

(2) 文化財保護関係事業

No.	事業名	目的(主たる内容)	開催時期等	備考
1	文化財審議会	文化財の保護・活用、指定等に関する調査、審議を行った。	会議2回 ①7月2日 ②11月20日 実地調査1回 ①8月27日	委員8名
2	高宕山のサルによる被害防止管理事業	天然記念物「高宕山のサル生息地」と周辺地域のサルによる被害防止事業、生態調査等を「天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業調査団」へ委託し実施した。	通年 被害防止管理委員会会議2回 ①7月15日 ②3月20日	委員13名
3	漁業資料館管理運営事業	資料館の施設管理、館内の保存環境調査や清掃を行い、資料の適正な保存環境の維持に努めた。	虫害等の環境調査 4回 6月・9月・12月・3月	
4	漁業資料館展示普及事業	資料館の展示事業、普及事業(ノリつけ体験等)の充実を図り、校外学習等の利用を促進した。	通年 入館者 979人 ノリつけ体験 8回 245人	
5	秋元城跡整備事業	除草作業を実施し、城跡の環境を維持した。	清掃管理2回 5月・11月	
6	指定史跡及び天然記念物管理事業	指定史跡等の清掃管理の助成を行い、適切な保存管理に努めた。 清掃管理箇所 県指定8か所、市指定4か所	清掃管理2回 春期・秋期	
7	文化財調査室管理運営事業	市直営で実施した発掘調査等の整理・分析及び報告書の作成等を行った。	整理作業5月～2月「君津市内遺跡」報告書刊行	
8	埋蔵文化財発掘調査事業	現状保存の不可能な埋蔵文化財について、確認調査、本調査を実施し、記録保存を図った。あわせて、個人農地造成に伴う調査(平成24年度実施)の整理・報告書作成を実施した。 ・市内遺跡発掘調査 ・民間開発発掘調査	市内遺跡 上湯江遺跡Ⅲ:6月～7月(確認・本調査)、練木遺跡Ⅰ:7月(確認調査)、鹿島台遺跡Ⅰ:5月～2月(整理・報告書作成のみ) 民間開発発掘 なし	

No.	事業名	目的・内容	開催時期	備考
9	埋蔵文化財保護と開発との調整及び現状保存の推進	埋蔵文化財保護のため、文化財の有無の迅速な確認、現状保存の理解と啓蒙を促した。また、埋蔵文化財包蔵地内での土木工事等を実施する際の文化財保護法93条の事前の届出の徹底を図った。	埋蔵文化財照会 22件 埋蔵文化財窓口対応等 314件 文化財保護法93・94条届出 16件	
10	文化財活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史 Kids 隊 市内小中学生を対象に、土器・石器等の実物に触れた後、古代の技術を体験する学習会を実施した。 ・出土遺物公開展（第20回） 「古代のすえ郡～まぼろしの郡衙～」をテーマに、市内の古代寺院や郡衙推定地の発掘調査成果を展示した。 ・講演会「古代のすえ郡～まぼろしの郡衙～」(講師：君津市文化財審議会委員・宮本敬一氏) ・文化財の修理 「松本ピアノ」修理：アップライト型1台(製造番号30950) ・文化財講演会 「周西歴史探訪-大和田の歴史を探る-」(発表：周西マップクラブ)、 「二五穴-山をぶち抜く用水路-」(講師：国立歴史民俗博物館教授・西谷大氏、千葉県立中央博物館上席主任研究員・島立理子氏) ・新井白石パネルミニ展示 	<ul style="list-style-type: none"> ノリつけ体験 7月24日、漁業資料館、16人 アングイン編み 7月26日、八重原公民館、19人 鹿角アクセサリーづくり 7月29日、生涯学習交流センター、18人 勾玉づくり体験 7月30日、漁業資料館、24人 8月13日～8月28日 アピタ君津店・中央図書館1,169人 8月23日：地域情報センター 聴講者 61人 6月22日：地域情報センター 聴講者 100人 10月30日～ (継続中) 	

No.	事業名	目的・内容	開催時期	備考
11	スクールミュージアム事業	<p>学校周辺の自然・文化等を児童生徒が地域の有識者や専門家等から指導を受け、学習や体験できる機会を設定した。モデル校は坂畑小・小櫃小・八重原小の3校とした。</p> <p>[坂畑小]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校職員対象研修 ・水生昆虫観察会 ・東京大学千葉演習林見学会 ・学校周辺の自然観察会 ・勾玉づくり体験 <p>[小櫃小]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水生昆虫観察会 ・学校職員対象研修 ・「小櫃の森」自然観察会 ・勾玉づくり体験 <p>[八重原小]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の遺跡めぐり ・水生昆虫観察会 ・学校職員対象研修 ・内みのわ運動公園内自然観察会 ・勾玉づくり体験 	<p>モデル校の坂畑小は毎月第3水曜日、小櫃小は毎月第2水曜日、八重原小は毎月第4水曜日に、社会教育指導員が定期訪問</p> <p>5月26日 6月17日(全校) 11月6日(下見) 11月12日(5・6年生) 12月12日(3・4年生) 3月3日(5年生)</p> <p>6月4日(2年生) 7月31日 11月8日(3年生) 2月27日(5年生)</p> <p>5月8日(6年生) 6月4日(2年生) 9月4日 10月29日(3年生) 3月4日(5年生)</p>	
12	博物館基本計画推進事業	<p>スクールミュージアム事業と連動させ、モデル校・八重原小に移動し、燻蒸した資料の清掃を実施した。</p>	<p>資料清掃：9～11月</p>	
13	無形民俗文化財保存事業	<p>県・市指定無形民俗文化財保存会の活動を助成し、保存継承と後継者の育成に努めた。</p> <p>県指定4団体、市指定4団体</p>	<p>通年</p>	<p>対象 8団体</p>

平成26年度 久留里城址資料館 事業報告

2015 4.1

	事業名	目的及び主たる内容	実施時期	場所等	備考	担当	副担当 補助者
展 示 事 業	1 常設展 「ふるさとの歴史と自然を たずねて」	資料館内…郷土を掘る・城と武士・信仰と 文化。 天守閣内…日本の古城(写真パネル展示) 屋 外…城郭遺構・上総掘り足場・ 樹木・山野草など。	通年	資料館・天 守閣と周辺	19,899人	布施 副館長	副館長 全職員
	2 企画展 「むかしの農具～米づくりに使 われたモノたち～」	君津市域でかつて使用され、現在では見るこ とのできなくなった農具や、今なお使われ続 けている農具について、実物や写真などによ り、むかしと今を比較しながら紹介した。	10月15日(水) ～ 12月7日(日) 【開館47日間】	資料館	3,736人	高橋	副館長 全職員
		◎講演会「農具の製作と流通-久留里鎌と木積 の箕を中心に」 講師:小林裕美氏 (千葉県立中央博物館主任上席研究員)	11月22日(土)	資料館	12人	高橋	副館長 全職員
		◎解説会 期間中6回	10月30日(木) 11月23日(土・祝) 12月6日(土)	資料館	43人	高橋	副館長 全職員
	◎企画展解説書の発行	10月15日(水)		2,000部	高橋	副館長 全職員	
資料紹介 「お・か・ね～貨幣の輝き～」	江戸時代初期に徳川家康が発行した慶長小判を はじめ、地元の方が所蔵している古代～近代ま での貨幣約20点を展示した。	7月23日(水)～ 10月5日(日) 【会期64日間】	資料館	4,757人			
ミニ展示「駅」	久留里線などの駅、君津駅にまつわる資料を紹 介するミニ展示。久留里商店街で開催中の「久留 里線博物館」とあわせて展示した(展示資料「上総山 本駅看板」ほか)。	1月20日(火)～ 3月15日(日) 【会期47日間】	資料館	2,334人			
調 査 研 究 事 業	3 企画展に関する調査	企画展に伴う各種調査。	4月～9月	市内・県内外	11回	高橋	全職員
	4 平成27年度企画展に関する調査	平成27年度企画展に伴う資料及び現地調査 等。	通年	市内・県内外	4回	布施	全職員
	5 資料調査	久留里城や市内の歴史等に関する資料調 査。	通年		41回	布施 副館長	全職員
・資 料 の 収 受 事 業	6 借用・寄託・寄附資料の管 理	借用・寄託・寄附資料の收受などの管理 (保管資料総点数約4,500点うち借用資料1,100点)。	通年	市内		高橋	全職員
	7 資料貸出・資料撮影許可	他博物館の展示や、学校への資料の貸出。 管理する資料の写真撮影の許可・情報提 供。	通年		36回	布施 副館長	全職員
教 育 普 及	8 歴史体験 -よらい武者に変身!-	試着用の鎧を着ることで、往時の鎧武者に思 いを馳せ、あわせて重量・感触を体験するこ とで、武具としての鎧を学び、その歴史に対 する認識を深めた。	5月3日(土・祝) ～5日(月・祝) 10:30～15:00	資料館	こどもか ら大人ま で280人	高橋 副館長	全職員
	9 資料館講座 -火をおこそう-	マッチやライターが登場する以前の「火おこ し」について、実際に火打石や火おこし器を 使った体験をとおし、かつての人々のくらし ぶりについて考えた。指導:当館職員	8月10日(日)	資料館	14人	高橋	全職員
	10 資料館講座 「ナイトミュージアム～夜の久 留里城探検&天体観望会～」	夏の夜の久留里城を舞台に、周辺の動植物 を観察したり、星空などの天体を観測を親子 で楽しんだ。天体観測講師:文化財審議委 員 御簾納 照雄氏	8月24日(日)	資料館およ び周辺	こどもか ら大人ま で19人	館長	布施 全職員
	11 資料館講座 -西上総の水利-	全国的にもめずらしく、近年研究者の注目を 集めている西上総の灌漑設備について現地 見学し、それぞれの水利の特徴を学んだ。	8月17日(日) 8月30日(土)	君津市 市原市	のべ 55人	布施	全職員
12 資料館講座 -浜古山略縁起を読む-	市内周南の浜子にある建暦寺の由来を記し た「浜古山略縁起」について、漢文の文章を わかりやすく口語に訳した。また縁起に登 場する文化財などを実際に拝観した(全3回)。 講師:佐々木昭子氏(元高等学校教諭) 歴史解説:当館職員	7月30日(水) 8月29日(金) 9月19日(金)	資料館およ び建暦寺・周 南公民館	のべ 60人	布施	全職員	

	事業名	目的及び主たる内容	実施時期	場所等	備考	担当	副担当 補助者
事業	13 資料館講座 -企画展関連講座-	親子教室「さん儀をつくろう」 企画展の関連事業として、展示への理解と 関心を深めるため、米儀のフタである「さん 儀」をつくり、農家の作業の一端に触れた。	11月9日(日)	資料館	17人	高橋	全職員
	14 資料館講座 -企画展関連講座-	「上総唐箕見学会～in豊島区～」 25年度に君津市で製作された「上総唐箕」が 東京都の豊島区立郷土資料館にて展示され るため、製作者とともに観覧しながら資料解 説をうけ、唐箕への理解を深めた。 講師:本吉好文氏(君津市卓球技能者)	3月22日(日)	豊島区立郷 土資料館	8人	高橋	全職員
	15 資料館講座 -資料から歴史を探る- ～初心者向け古文書基礎講 座～	雨城古文書同好会と連携し、広く市民などを 対象に、江戸時代に作成された文書、とりわ け君津の資料をもとに、基本的な読解方法 の習得をめざした(全4回)。 講師:雨城古文書同好会会員	7月12日(土) 8月9日(土) 9月13日(土) 10月11日(土)	上総公民館	のべ 44人	副館長	全職員
	16 資料館講座 -城を歩こう【常代城】	久留里城・秋元城などと同時期の中世城郭 「常代城」をたずね、遺構を見学するなかで、 城に対する関心や認識を深めた。 講師:小高春雄氏 (千葉県教育振興財団文化財センター職員)	2月28日(土)	常代城跡 (周南地区)	29人	布施	全職員
教育普及 事業	17 博学融合事業	市内小学校など(主に3年生)の授業における 博物館の活用(社会科・総合学習など)に協 力した。また、むかしの生活道具を学校に貸 し出し解説する出前授業を行った。	5月2日(金)北子安 5月9日(金)小糸 5月20日(火)真元 6月3日(火)周南 6月11日(水)中 6月17日(火)八重原 6月24日(火)南子安 7月15日(火)大和田 10月15日(水)外実輪 12月2日(火)松丘城郷 2月5日(木)久留里	資料館	504人	館長 布施	全職員
	18 閲覧用図書管理	図書資料の閲覧管理および受贈図書の受け 入れ。	通年	資料館		伊藤	副館長
	19 研究者等への情報提供	調査・研究のための来館者や電話等での依 頼に対し、久留里城や市内の歴史・文化財 についての情報提供を行った。	随時		24回	副館長 布施	全職員
	20 学習支援	団体・サークル・社会教育関係等の学習への 講師派遣・説明を行った。	通年		42回	布施 副館長 高橋	全職員
	21 職場体験の指導 (博物館実習生の受け入れ)	大学で学芸員の取得を目指す学生の指導に あたり、養成を行った。【大正大学4年生】 実習期間中に、「小櫃にもあった製糸工場」と 題したミニ写真展を企画・展示した。 「小櫃にもあった製糸工場」(8/12[水]-10/12[日])		資料館	1人	副館長 布施 高橋	全職員
資料 保存 事業	22 入館管理業務	受付窓口対応。展示資料等の盗難、写真撮 影による資料の劣化防止。入館案内。周辺 地理案内。	通年	館内		伊藤	全職員
	23 館内清掃業務	館内美化のための清掃業務。	通年	館内		シルバー	全職員
		展示資料の劣化を防ぐための清掃業務。	毎日	館内		布施	全職員
	24 温湿度管理業務	展示資料の劣化を防ぐための管理業務。	毎日	館内		伊藤	布施
	25 展示室・収蔵庫定期清掃及 び点検	資料の劣化防止。 定期清掃として、展示室・資料展示ケース 内・展示資料・収蔵庫の埃払い、掃除機か け、必要箇所の殺虫・防虫処理、エタノール 消毒等を、環境調査委託の報告や日常点検 に基づいて、年間計画を立てて実施した。	通年	館内		布施	全職員
	26 保存環境点検・整備業務	施設全体の保存環境を点検し、管理整備す る業務。展示資料・収蔵資料の状況の確認 点検。地震対策。	通年	館内		布施	全職員
	27 燻蒸業務	企画展資料や民具等虫菌害を受けやすい資 料に対し、薬剤燻蒸を行った。	9月17日(水) ～10月1日(水)	資料館		高橋 布施	全職員

	事業名	目的及び主たる内容	実施時期	場所等	備考	担当	副担当 補助者
広報活動	28 資料館だより45号の発行	資料館事業の広報。企画展などの事業、収蔵資料、近年の研究成果の一端を紹介した。	10月1日(水)		6,000部 1回	伊藤	全職員
	29 年報35号の発行	前年度実施事業の概要と調査研究の成果の報告。	3月20日(金)		150部	伊藤	全職員
	30 HP・広報への掲載	企画展等の情報についてのHP・広報きみつ等へ掲載、情報提供を行った。	通年			高橋	副館長
	31 メディアへの情報提供・取材協力	新聞、情報誌、観光紙、テレビ番組等へ資料館や周辺地域等の情報提供、取材協力をした。	随時			副館長	布施
他機関との合同事業	32 千葉県博物館協会	千葉県に所在する博物館の協会。 総会・研修会などに参加した。	総会 5月28日(水) 研修会 11月14日(金) 研究報告会 2月10日(火)	千葉県立中央博物館 千葉県立現代産業科学館		副館長 全職員	
	33 君津地方公立博物館協議会	君津地方4市に所在する博物館の協議会。 理事会・研修会の開催。 担当者会議	理事会 研修会 12月15日(月) 1月15日(木) 2月18日(水) 担当者会議			館長 布施 全職員 布施	
	34 君津地方社会教育研究会	君津地方4市の社会教育関係職員の研究会。 総会・視察の実施。			2回 1回	高橋	
	35 社会教育関係職員研修会	研修会・交流会の実施。			4回	全職員	
	" 世話人会	研修計画等打ち合わせの世話人会の実施。	通年		4回	高橋	
	36 文化財審議会への参加	関係機関として参加。 会議・視察。	7月2日(水) 11月20日(木)		2回	副館長	布施
委員等協力	37 生涯学習フェスティバルへの参加	市民と行政が学びの楽しさ、大切さを共有し、学びの輪の広がりを目的に開催されている君津市生涯学習フェスティバルへ参加し、参加者によろいの着付けを行った(フェスティバルは今回が最終回)。	11月15日(土) 11月16日(日)	生涯学習交流センター	110人	高橋	全職員
	38 屋外展示物整備	遊歩道等屋外展示物の整備をした。	通年	資料館・天守閣周辺		高橋 伊藤	全職員
施設管理	39 管理業務委託	警備・各種設備保守点検等の管理委託。	通年	資料館・天守閣他		伊藤	
	40 施設維持補修(大雪による災害復旧)	平成26年2月の大雪被害による久留里城天守閣および資料館施設等の復旧作業。 【天守閣曳瓦等修繕・天守閣棟漆喰補修・倒木処理・避難設備修繕・照明灯修繕】	7月～10月	天守閣・資料館・登城道周辺		館長 副館長	全職員
	41 施設維持補修(観光トイレ改修工事)	老朽化した資料館建物内外のトイレの改修工事を、県の観光地魅力アップ整備事業の補助金を得て実施した。	11月28日(金) ～3月20日(金)	資料館トイレ 資料館外トイレ 天守閣外トイレ		館長 副館長	全職員
	42 警備業務検討委員会	館の警備業務委託について、現行の人的警備か機械警備を検討する委員会を開催した(全3回)。結論として人的警備を続けることになった。	8月28日(木) 9月25日(木) 10月23日(木)	市役所および資料館		館長 副館長 布施	全職員
運営	43 資料館運営推進協力員	資料館の円滑な運営及び市民との協働による資料館事業の推進を図るため、意見を聴取した。	5月23日(金) 11月7日(金) 3月20日(金)	資料館	3回	館長 副館長	全職員
その他担当者	44 くりボランティアガイド	関係機関として協力。 視察研修・総会への参加。 学習会講師等。	通年			館長	
	45 環境担当	グリーン購入等担当。	通年			伊藤	高橋
	46 情報化推進員	情報化推進員。	通年			高橋	副館長
	47 職員研修	館保存環境整備・消防訓練などの研修を実施し、研鑽を積んだ。	6月25日(水) 3月6日(金)			布施 副館長	全職員 (シルバークラブ)

平成26年度 体育振興課 事業報告

No	事業名・内容	実施時期	実施場所	参加人数(団体数)
1	第27回グラウンド・ゴルフ大会	5月24日(土)	君津グラウンド・ゴルフ場	145名
平成26年度君津市スポーツ・レクリエーション祭				
2	・インディアカ大会	6月29日(日)	君津市民体育館	25名(5チーム)
	・ソフトバレーボール大会			女性 38名(7チーム) 混合 37名(7チーム)
3	君津地区スポーツ・レクリエーション祭富津公園歩け歩け大会	7月6日(日)	富津公園	約300名
4	夏期ラジオ体操会	7月24日(木)～ 8月22日(金)	市内中学校区 11会場	約25,000名
5	全国・関東大会出場激励会	8月4日(月)	君津市役所 6F 601	25名
6	第38回中学生軟式野球大会	8月16日(土)～ 8月17日(日)	小糸スポーツ広場野球場他	110名(9チーム)
7	第14回3on3バスケットボール大会	9月7日(日)	君津市民体育館	97名(20チーム)
市民体育祭				
8	・北子安地区	10月12日(日)	北子安小学校	約1,000名
	・小糸地区	10月12日(日)	小糸中学校	約1,800名
	・清和地区	10月13日(月)	清和中学校	雨天中止
	・小櫃地区	11月3日(月)	小櫃中学校	約3,000名
9	第7回小学校駅伝・ロードレース大会	11月18日(火)	小櫃地区	駅伝171名(31チーム) ロード360名
10	第14回中学生野球教室	11月22日(土)	新日本製鐵住金(株) 君津球場	98名(9チーム)
11	第13回中学生サッカー教室	11月29日(土)	新日本製鐵住金(株) 君津グラウンド	22名(2チーム)
君津地区スポーツ・レクリエーション祭				
12	・グラウンド・ゴルフ大会	11月30日(日)	桜井運動場	78名
	・インディアカ大会		木更津市民体育館	88名
	・ソフトバレーボール大会		木更津市民体育館	105名
13	ライオンズ運動能力章表彰式	12月10日(水)	君津市役所 6F 601	765名
14	第43回君津ニューイヤーマラソン大会	1月1日(木)	内みのわ運動公園	647名
15	第7回中学校 新人駅伝・ロードレース大会	1月20日(火)	小櫃地区	駅伝110名(20チーム) ロード200名
16	第35回市民なわとび大会	2月11日(水)	君津市民体育館	個人282名 団体309名(11チーム)
17	市長賞表彰式	2月20日(金)	君津市生涯学習交流センター	個人34(スポーツの部) 団体13(スポーツの部)

平成26年度 君津市の図書館事業報告

(1) 利用者数、中央図書館入館者数 *BS=ブックスタート

	中央	BS	移動図書館	市民体育館	周南	小糸	清和	小櫃	上総	合計	入館者(中央)
平成25年度	193,410	63	14,952	5,840	735	911	441	735	3,778	220,802	362,948
平成26年度	179,962	57	15,441	5,229	920	1,056	468	881	3,318	207,332	335,490

(2) 貸出冊数(施設別内訳) *BS=ブックスタート

	中央	BS	移動図書館	市民体育館	周南	小糸	清和	小櫃	上総	合計
平成25年度	868,996	187	34,504	20,619	2,043	3,249	1,666	2,645	14,002	947,724
平成26年度	800,973	138	38,056	18,547	2,811	3,510	1,584	2,817	12,125	880,561

(3) 児童サービス、学校、保育園、幼稚園に対する協力業務他

	児童サービス(図書館主催読書推進事業)													
	おはなし会		わらべうた	おひざにだこの絵本の時間	季節のおはなし会			夏休み行事			読書月間行事			えほん福袋
	幼児	小学生			夏	秋	冬	春	ブックトーク	工作会	1日図書館員	図書館フリー	おはなし会	
平成25年度	50回 370人	50回 253人	42回 706人	42回 353人	1日3回 81人	1日2回 50人	1日3回 46人	1日3回 29人	1回 9人	1回 38人	1回 12人	8日 377人	27日 42人	388冊
平成26年度	50回 428人	50回 286人	42回 482人	42回 279人	1日3回 65人	1日2回 68人	1日3回 25人	1日3回 26人	3回 37人	1回 34人	2回 12人	8日 216人	27日 100人	340冊

	学校、保育園、幼稚園に対する協力業務			ブックスタート (受診者内%)		その他
	来館おはなし会	出張おはなし会	公民館児童行事	職場体験		
平成25年度	4施設 17回	13施設 94回	3施設 12回	8校 19人	20回583人(99.3%)	ぬいぐるみお泊まり会20人
平成26年度	4施設 17回	13施設 94回	3施設 12回	8校 20人	20回612人(99.8%)	ぬいぐるみお泊まり会25人(定員増)

(4) 集会事業・講座・視聴覚事業・アウトリーチサービス事業

	著者を囲む会		名画鑑賞会(延)		点訳講座		読み聞かせ学習会		その他講座等	
	1回	88人	12回	648人	22回	10人	8回	3人	点訳体験1回14人	対面朗読2名
平成25年度	1回	88人	12回	648人	22回	10人	8回	3人	点訳体験1回14人	対面朗読2名
平成26年度	1回	107人	12回	595人	21回	17人	10回	3人	子供と楽しむわらべうた講座1回36人	対面朗読2名
									古本市-7/19~7/21 834人(3,436冊 うち雑誌697冊)	うち雑誌1,473冊

(5) 施設貸出実績(会議室等有料施設)

施設貸出件数: 2, 454件 利用者数: 13, 204人 利用時間: 4, 790時間 利用料: 1, 027, 750円

生涯学習課 26年度事業報告(概要)

分類	事業名称	回数・延人数等	主な内容・題材等	目的・背景等	成果・課題等
社会教育委員関係	社会教育委員会議	3回 8.5時間 70人 他、小委員 員会	・諮問 ①平成26年度君津市社会教育活動振興事業補助金の交付について ②今後の君津市公民館の施設整備と運営について 報告 平成26年度君津市教育行政方針について、ほか	社会教育法に基づき社会教育に関し教育委員会に助言するため設置。本市の社会教育の振興方策全般について研究・調査し、生涯学習時代の社会教育のありかたを考える。市民が求める地域づくりのための社会教育活動の推進に係る具体的指針を社会教育施策に反映させることができる。委員12名。(任期25.4.1～27.3.31)	・「今後の君津市公民館の施設整備と運営について」答申をおこなった。 ・社会教育関係団体が今年度活動する補助金交付の諮問・答申をおこなった。 ・実施事業を報告し、活動内容について理解を深めた。
子ども読書活動推進事業	ブックスタート事業	20回 613人	・ブックスタートパックの配布 ・ブックスタートボランティア全体会 ・ブックスタートボランティア研修会 ほか	「第二次君津市子ども読書活動推進計画」では乳児期の柱となる取り組みに「子どもが初めて本に出会うための事業」を掲げている。取り組みの一つがブックスタートである。ブックスタートは1歳6ヶ月健康診査の際に絵本の読み聞かせを行い、親のふれあいの時間を作ることを目的に実施している。生涯学習課、中央図書館、児童家庭課、健康管理課、市民ボランティアと連携し、絵本を通じて子どもへの読書推進と子育て支援を充実させるため企画・運営を行っている。	健康会場での案内のときにブックスタートを受けた人が多数おり、事業の認知度が高まっているように感じる。ボランティア全体会・研修会も各1回実施し、ボランティアのスキルアップ向上に寄与。 ブックスタートの認知度を高めるPRの工夫と予算確保が課題。 *ハガキを送っても参加率が2%と低く他の事業との優先順位を考慮した結果H25年度をもってブックスタートに來られない方へのハガキ通知フォローは終了。
生涯学習推進事業	まちづくりふれあい講座	39回 1547人	・要質商法撃退法(市民生活課) ・ごみの分け方・出し方・処理について(環境衛生課) ・防災講座(危機管理課)	市民等の団体が主催する集會等に講師が出向いて、市政の説明、専門知識を活かしての実習等を行うことにより、市民等の市政に関する理解を深めるとともに、学習機会の充実および意識啓発を図り、もって生涯学習によるまちづくりを推進することを目的とする。	実績：39講座、1,547人受講(昨年度37講座、1,435人) 昨年度より参加実績は減少したが、来年度は本年度の反省を元に講座名・内容を見直す。講座メニューの配布先も、支援学校などに対象を増やし、広報を活用して年度内に数回の周知を行い、受講者からの評価は、各課の担当(市民環境部や高齢支援課、危機管理課など)の努力により良好。
生涯学習推進事業	第20回君津市生涯学習フェスティバル	9回 40時間 12205人	作品展示、体験、模擬店、きみつにもものの大集合、環境フェア、きみつ産業フェア、手作りダンスフェス、団体の活動紹介、バザー、コーラルフェスト ほか	生涯学習の普及・啓発を図るため、市民の生涯学習活動を紹介すると共に、学習活動への参加と体験を促進し、かつ共に考え合う機会を提供する。生涯学習フェスティバルを開催することにより幼児期・青少年期から高齢者に至るまでのライフサイクルにおける家庭・学校・社会それぞれでの学習活動に対する理解を深め、一人一人の学習意欲の向上を図る。準備会を経て、実行委員会による運営。	第一会場ともに第二会場も運営がスムーズに行われた。千葉県博図公連携事業実行委員会との共催により、特別企画「きみつにもものの大集合」を開催。君津リリーダースクラブ、きみつ少年少女合唱団、君津市子ども会育成連絡協議会、生涯学習フェスティバル実行委員会との連携により、子どもたちの運営によるイベントが成功した。また、これまでのフェスティバルを振り返る特別展示も開催した。 今回が最終回だが、事前協議を丁寧におこない、参加者一同で有終の美を飾ることができた。

下町集会所管理経費	下町集会所管理経費	目的：バ権問題の解消のための集会所施設として、多くの住民に利用してもらい、またその管理運営を地域住民を含めて行うこととで交流を深め、融和や理解を促進する。 備考：下町集会所運営委員会の協議に基づき集会所を運営。会議は年3回開催。 運営委員：定数15名（地元自治会、人権擁護委員、小中学校校長等）任期は2年間 生涯学習課：人権教育推進事業等で年間を通じて施設を活用	集会所が管理を適切に行うことで、地域住民の利用を促進し、交流の助けとなった。草刈では施設維持と共に、地元協力を得ることとで、自分たちで管理する集会所であるという意識を養う事が出来た。運営委員会が事業や管理について意見を得て、それを反映した活動が可能となった。 予算面で現状維持以上の事が難しく、地元自治会が協力してきているが、草刈の人手についても高齢化が懸念される。集会所は築30年を過ぎ、今後の施設維持管理について検討しなくてはならない。
女性教育振興事業	女性教育振興事業	・学習会「君津市のごみ処理問題の現状と課題について」「君津市の環境、水質汚濁について」 ・講演会「しあわせな出産・子育てを考える～助産師からのメッセージ～」 ・活動記録集作成 ほか	【成果】定期的に幹事会を開き、情報交換や各種研修会の企画・調整を行い、グループ同士との交流が深められた。特に、10月には出産・子育てについての特講演会を開き、市民に学習する機会を提供し多くの参加者を募ることができた。 【課題】若い世代の女性のリーダーの育成・交流を深めたい。学習した内容を諸団体の活動に活かす、女性同士のネットワークの構築を広げたい
地域コミュニティ推進事業	君津市青少年健全育成団体合同研修会	・団体活動報告 ・講和「通学路の現状と立哨指導のポイントについて」 ・講演「子どもたちが携帯電話・インターネットを安全に使うために」	団体活動報告、講話、講演をもとに参加者同士意見交換を行い、青少年健全育成について考えを深める機会とすべく準備を進めた。講話、講演の題材については、参加者にとりて身近な実例を扱っていただきたきという旨、講師とも打ち合わせを重ねた。今後の研修等で活用できよう検討したい。
少年教育振興事業	青少年健全育成団体	・各団体の定期総会に出席 ・各団体教育講演会に出席 ほか	各地区の活動に対し、情報提供等が行われてきた。子ども110番の家の活動等が順調に行われている。
少年教育振興事業	少年教育振興	・定例会に参加 ・君津市子ども広場運営支援 ・育成者講習会協力 ほか	リーダー・スタッフの低米化が課題となっているが、定例会議への支援、生涯学習課主催事業における活動の提供などを通じて、安定した運営が見られるようになった。地区子ども会の解散、休会等が増えているため、君津市子ども会育成連絡協議会と協力して地区子ども会への支援に力を入れ、子ども会の意義の再確認、充実化を目指している。また、リーダー・スタッフの活性化に向けて継続的な支援策が必要。

その他諸経費	社会教育職員研修	3回 15時間 128人	君津市社会教育関係職員が社会教育関連法令、理論、実践、時事課題、地域課題についての見識を深め、今後の社会教育の充実、発展を図る。君津市の各社会教育機関が一堂に会する機会として貴重機会であり、君津市の地域課題、時事課題等と社会教育業務との具体的な関連、各機関の連携などについて考えを深める場とする。	君津市の社会教育関係職員が社会教育関連法令、理論、実践、時事課題、地域課題についての見識を深め、今後の社会教育の充実、発展を図る。君津市の各社会教育機関が一堂に会する機会として貴重機会であり、君津市の地域課題、時事課題等と社会教育業務との具体的な関連、各機関の連携などについて考えを深める場とする。	研修世話人による企画、運営のため、当事者性の高い研修が実施できている。時事研修会では企画課の協力を得て、市内定住人口減少などの現実的な課題について認識を深めることができた。
その他諸経費	青少年教育担当者会議	4回 8時間 45人	・成人を祝う集いについて ・今後の青少年相談員の定数について ほか	青少年関連事業の充実化に資するため、公民館青少年教育担当者で各議題について協議をし、情報共有を図る。	成人を祝う集いにおける青年のかかわりのあり方、地域行事としてのあり方などについて検討を行った。また、青少年相談員の任期満了に向けて、地区相談員選出のあり方等について検討を行った。
青少年相談員活動補助金	青少年相談員		・チャレンジファイヤー ・君津ふれあい祭り街頭パトロール ・君津ふるさとかるた大会 ・「こぶしの花」作成 ・君津地区青少年相談員課題研修会 活動事例発表「小糸地区のキャンピングについて」 ・各地区活動 ほか	君津市青少年相談員とは地域での青少年育成活動の積極的な推進を図るため、千葉県知事と君津市長から委嘱されている。市内には107名の青少年相談員がおり、各地区（君津・周西・八重原・周南・小糸・清和・小櫃・上総）ごとにわかれて、地域の青少年健全育成活動の指導者として活躍している。	平成25年度で千葉県青少年相談員および、君津市青少年相談員として50周年を向えた。平成25年度～27年度の間に、第18期青少年相談員の委嘱期間中に県および市で50周年記念行事を行う予定。 平成26年度中に千葉県青少年相談員50周年記念大会、千葉県青少年相談員50周年記念イベント「レッツダンスインちはば2015」を行った。平成27年度は市の50周年記念行事を進めていく。
情報通信技術（IT）推進事業	IT講習会	37回 165時間 220人	・ようこそPC ・文書作成入門講座 ・デジタル講座 ・ブログ講座 ・夏休み小学生講座 ほか	情報通信技術（IT）を広く市民が習得し、実生活に役立てられるよう、身近な課題から5種の講座を実施する。講師は市民ボランティアであるきみみつITサポーター会が担うことにより、市民が市民を支える協働のまちづくりを旨とする。 ・ITサポーター21名	実績：30講座+夏休み講座6日間 延べ213人受講（昨年度220人） 講座は地域情報センターのみで実施。1講座あたり平均6.0人が参加し、女性の参加率が高い。 なお、ITサポーターと協議を進め、平成27年度から予算がつまなくなつた関係で、生涯学習課主催事業としては平成27年度をもって終了。ITサポーター会として独立して活動を続けるか否かについては1年かけて協議していく。
家庭教育支援充実事業	家庭教育担当者会議	5回 6時間 35人	・公民館保育・保育協力者に関する取り組みについて ・保育の取びきについて ・家庭教育学級以外の家庭教育関連事業の実施状況について ほか	家庭教育支援充実事業の充実化に資するため、公民館家庭教育学級担当者で各議題について協議をし、情報共有を図る。 年度初めに家庭教育事業実施上での課題を出し合い、それらを議題とし協議を進め、家庭教育支援事業についての認識を深める場とする。	昨年度から協議を続けてきた「公民館保育の手引き」が完成し、その活用について意見交換が行われた。さつそく各学級運営に役立てられた事例もみられ、今後のよりよい運営が期待できると見られる。今後は家庭教育事業のあり方、家庭教育以外の成人教育などの情報交換なども行えるようにしたい。

人権教育推進事業	久留里子どもふれあい教室	16回 19時間 220人	<ul style="list-style-type: none"> ・外国のおかしづくり ・手話で歌を歌いましょう ・上総堀りの体験と君津中央図書館見学 ほか	<p>【目的】人権に関する正しい知識、実践力を身につける場とすると共に、子ども同士のふれあいや心を育て、仲間意識や思いやりを育める。また、人権推進校との連携を深める。</p> <p>【備考】久留里地区を拠点に、地区の子ども達の人権感覚を養えるよう、人権に関する課題に添った様々な体験活動を実施する。1回約2時間という反響課題からは十分に人権への理解が図れないといった反省から、他者に対する思いやりや、人権感覚を培えるよう、人権に関する様々な体験活動を実施する。</p>	<p>子ども同士のつながりが深まり、地域のひととの交流も深められた。多くのひとの出会いで子どもたちが少しづつ成長している。目標への理解、新しいことに挑戦する楽しさ、友達と協力して達成することなどを学べた。上総公民館との連携では、回ごとに担当職員の出席を「ふれあい教室」から発信し、教室の主体となる子どもたちのリーダーシップが図られると良い。学習内容では、子どもたちが楽しく、また人権についてわかりやすく学べる内容を充実させる。</p>
生涯学習事業	公民館維持補修事業		<ul style="list-style-type: none"> ・八重原公民館ギャラリースタ調修繕 ・周南公民館屋上配水管補修 ・清和公民館雨漏り補修 ほか	<p>公民館の社会教育活動や施設の貸し出しを行う際に、利用者が快適かつ安全な利用が可能となるよう施設維持を行う。また、地域の避難施設としての利用が想定されているため、施設の機能維持についての定期的なメンテナンスを実施する。</p> <p>建設より40年以上が経過した施設については特に修繕箇所が多く、安全のために必要最低限の修繕を行う。</p>	<p>快適かつ安全な利用について、必要最低限の部分について修繕を実施した。限られた予算内で当初予定の執行を目指したが、消防設備や台風・大雪による破損など、突発的な補修が連続した。しかし、各公民館職員の協力もあり、適切な施設維持に努める事が出来た。</p>
生涯学習事業	公民館管理運営事業		<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備点検業務 ・公民館設備保守管理業務 ・浄化槽維持管理業務委託 ほか	<p>目的：地域住民の利用に供するため6公民館及び1支館について、法律に基づく調査・検査・維持管理を行う。また、地域の実情に応じて必要な施設・設備の充実を図る。</p>	<p>法に基づく適切な管理を行い、施設機能の維持と快適かつ安全な利用を確保した。また、各公民館のAEDを学校等と併せてリース契約により更新したほか、電気供給契約を安価なPPS業者へ変更し、経費削減につなげた。</p>
子どもの読書活動推進事業	君津市子ども読書活動推進計画関連事業		<ul style="list-style-type: none"> ・君津市読書活動推進委員会(3回 15名) ・1日だけの森の童話館(1回 285名) ほか	<p>平成19年10月に策定された「君津市子ども読書活動推進計画」の成果と課題を踏まえ、平成25年3月に「第二次君津市子ども読書活動推進計画」を改訂。君津のすべての子どもたちが楽しく充実した読書が出来る環境の充実を図る。併せて豊かな子ども心の育成を基盤作りと、それを支える環境整備及び人材の育成を進めていく。</p>	<p>【成果】ブックスタート事業や、圖文庫の整備、学校図書館司書補助員の全校配置(市立小・中学校)など読書環境の整備が進んでいる。読書関連機関や担当課で情報共有や相互協力が行われた。これからは母親や父親になる方への支援としてマタニティクラスや読書講座等を実施。</p> <p>【反省・課題】年齢区分に応じた効果的な読書活動を推進するとともに、各課・関連機関と連携を深める。家庭での読み聞かせの普及や各種事業の充実、日本語を母国としないことへの更なる支援、予算措置の継続が課題である。</p>
上総地域交流センター運営事業	上総地域交流センター管理運営事業		<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備点検業務 ・設備保守管理業務 ・浄化槽維持管理業務委託 ほか	<p>君津市副次核整備計画に基づき建設された上総地域交流センターについて、市民の利用に供するための維持管理を行い、必要に応じて設備の充実を図り、快適かつ安全な利用を確保する。</p> <p>備考：公民館、行政センター、東部土木事務所が施設を共有するが、光熱水費、通信、施設維持に係る委託業務、各種検査、修繕、備品管理等については生涯学習課で行う。</p>	<p>法に基づく管理を行い、施設機能の維持と快適かつ安全な利用を確保した。また、修繕費については浄化槽の消耗品の交換の他、突発的な修繕等の対応を行った。</p>

人権教育推進事業	人権ミニフェスタ2014	1回 480人	<p>・展示活動 人権に関するリーフレット、ポスター等 久留里小学校・公民館の活動発表等 ・講演会「アイヌの昔話」 ・講演会「災害と人権」</p>	<p>【実施背景】市民誰もがかけがえのない人間として人権が尊重され、いきいきと安心して生活できるまちづくりを目指すために、人権教育推進事業の一環として啓発事業を実施。人権週間（12月4日～10日）に併せて、展示による啓発活動を行う。 昨年の反省点を受け、市内公民館、人権擁護委員など協力機関の広がり・連携に努力した。</p>	<p>① 会場見学者、1日平均30人×6日×2会場＝480人程度 各事業に参加できない人に対して情報を発信した。 ② リーフレットやポスターの目的・設置を市民生活課と共有する必要あり ③ 人権教育の指定校久留里小学校全校生徒を対象に「人権標語」を作成・展示。今年は秋元小学校、貞元小学校の協力を得て展示した。 ④ 市内公民館の人権学習の様子も周知できた。 ⑤ 人権ミニフェスタをより多くの人に周知、来場してもらいたいための方策を考えたい。「アイユ」等参考に全国の取り組みを学ぶ必要がある。</p>
人権教育推進事業	人権問題学習講座	2回 5時間 50人	<p>・絵本の読み聞かせ「セミ神様のお告げ」(アイヌ文化の伝承活動家宇梶静江氏) ・防災意識の高揚や復興支援に向けた「地域社会のつながり・絆」について ほか</p>	<p>【目的】広く一般市民が人権問題について学ぶことのできる機会を設け、より豊かな人権感覚を養う場の創出を目指す。 【備考】人権ミニフェスタの開催期間中に人権問題学習講座を実施。</p>	<p>2回とも非常に興味深い話だと感想をいただきましたなど、内容は大変好評で充実したが、参加者が少なく残念だった。他の行事と絡めながら実施するか、今後の課題ともなる。</p>
人権教育推進事業	地域住民交流教室	6回 49人	<p>・補聴器工場と都内最古の寺、浅草寺の見学 ・ともに幸せを求めて～地域の中で「生きる」 ・「災害と人権」 ほか</p>	<p>【実施背景】地域の身近な人権課題についての学習を通して、ひとりひとりの人権が互いに尊重され、誰もがいきいきと安心して生活できるまちづくりを目指す。 【備考】昨年は、下町集会所開所30年の節目だったので、本事業を改めてと人権教育推進事業として位置づけ、施設の理解と周辺住民の交流を深めることに重点を置いた。</p>	<p>この事業への参加をはげみにしている高齢者もあり、地域住民の交流が図られている。各回とも、交流・ふれあいを主にする活動としながら、人権に結びつく題材を選定できるよう努力してきている。今後、より人権への理解が深まるような取り組みを研究する必要がある。参加者層の幅を広げることが今後の課題である。</p>
女性教育振興事業	女性教育振興事業		<p>・役員会に参加 ・幹部研修会支援 ・支部長研修会の運営補助 ほか</p>	<p>【実施背景】女性が地域社会で様々な活動を展開できるよう、各種事業の振興を図るとともに、会議・行事等における助言、運営補助等を行う。 【備考】支部長研修会では各公民館職員も参加し今後の婦人会活動について話し合いを行った。会員と職員との交流が深められ、今後一層職員との連携を密にしよりよい活動を展開することとが期待される。</p>	<p>【成果】役員、理事の相互理解を深め、チームワークが実りある成果を収めた。各研修会など、役員との交流を深めることが出来た。学習機会の提供を図り、会員同士の交流を深めることが出来た。また、会員以外にも婦人会活動のPRができた。 【課題】今後は学習した内容を単位婦人会活動や地域活動に活かすことが期待される。また、アンケートなどをとって今後の婦人会活動の活性化や会員減少について対策を考えていきたい。</p>